

『大阪光のまちづくり2030構想』

2022年3月

光のまちづくり推進委員会 事務局

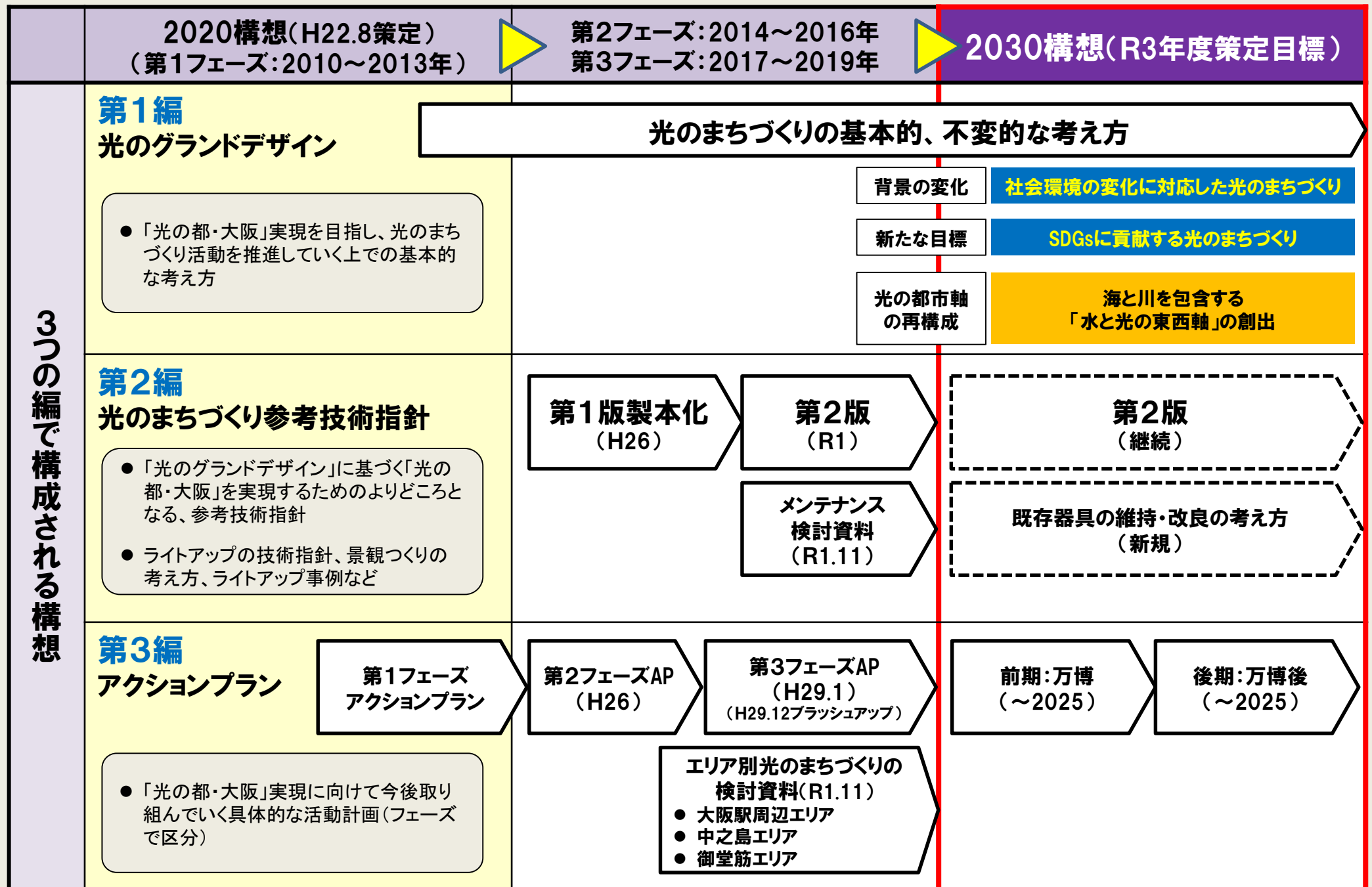
目次

1. はじめに～取組み経緯 [認識共有] 2 ~ 11
『大阪光のまちづくり2020構想』について
2. 2030構想について 12 ~ 34
3. 参考資料 35 ~ 44

『大阪光のまちづくり2020構想』の概要

- 『大阪光のまちづくり2020構想(以下「2020構想」)』は、2020年を目処に「光の首都・大阪」の実現、大阪ならではの一体感ある光のまちづくりの形成に向けて、光のまちづくり企画推進委員会が2010年8月に策定した大阪における光のまちづくりの指針である。
- 光のランドデザインの考え方をもとに第一編「光のランドデザイン」、第二編「光のまちづくりガイドライン」、第三編「アクションプラン」の三部で構成されている。

〔構想の変遷〕



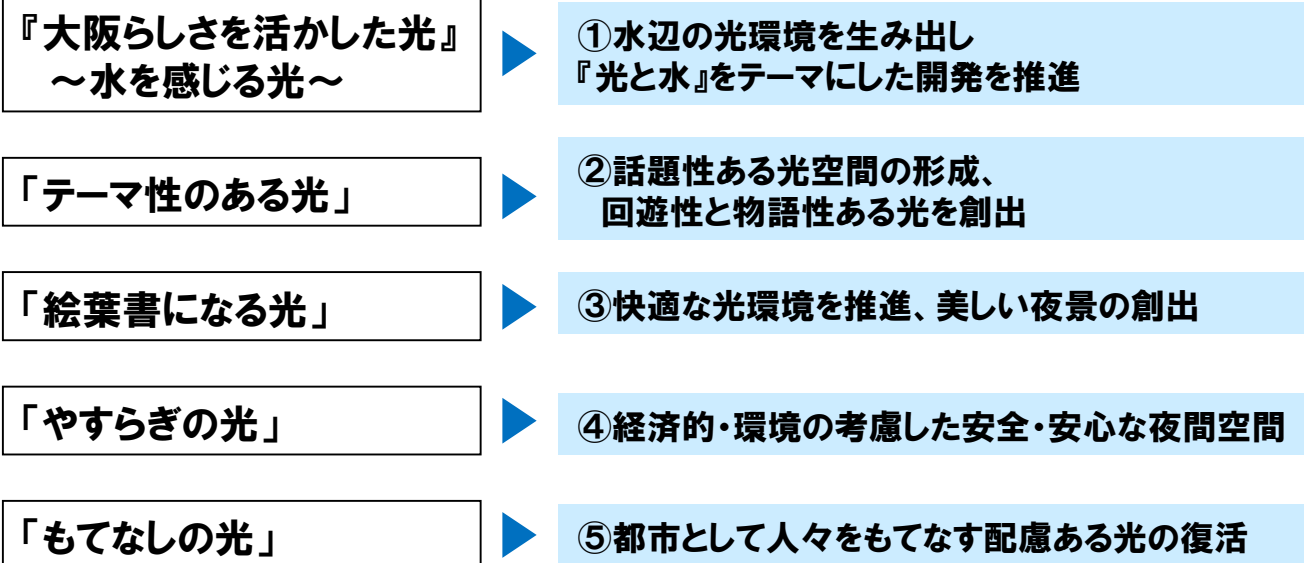
『大阪光のまちづくり2020構想』の概要

大阪光のまちづくりグランドデザイン

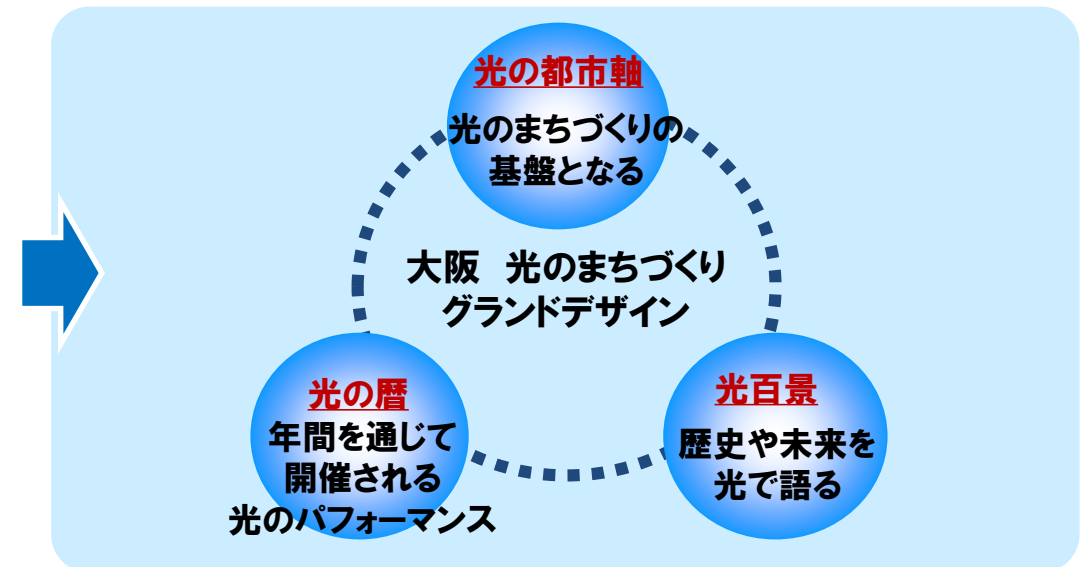
- 大阪光のまちづくりグランドデザインは光のまちづくりの最も基本となる概念である。
- 行政、民間、有識者で構成される光のまちづくり企画検討委員会(現:光のまちづくり推進委員会)によって2004年3月に策定した計画であり、このグランドデザインは、5つのコンセプトと3つのファクターで構成されている。

光のグランドデザイン

大阪光のまちづくり『5つのコンセプト』



3つのファクター(光のネックレス構想)



光のまちづくり企画推進委員会、行政、民間による光の広がりや、水都大阪2009事業による光のまちづくりの機運の高まり

新たな大阪のアイデンティティの芽生え

NEXT STAGE

=大阪光のまちづくり2020構想=

水の都・大阪 + 光の都・大阪

国内外へ発信する大阪らしい光のまちづくりを目指して

『大阪光のまちづくり2020構想』の概要

大阪光のまちづくりグランドデザイン 『光のネックレス構想』

- コンセプトの実現のための戦略として、インフラストラクチャーとしての光の整備の考え方、祝祭空間つまりイベント時の光の考え方、光を観光資源として対外的にプロモーションする際の考え方として、以下3つのファクター(光のネックレス構想)の設定を行っている。

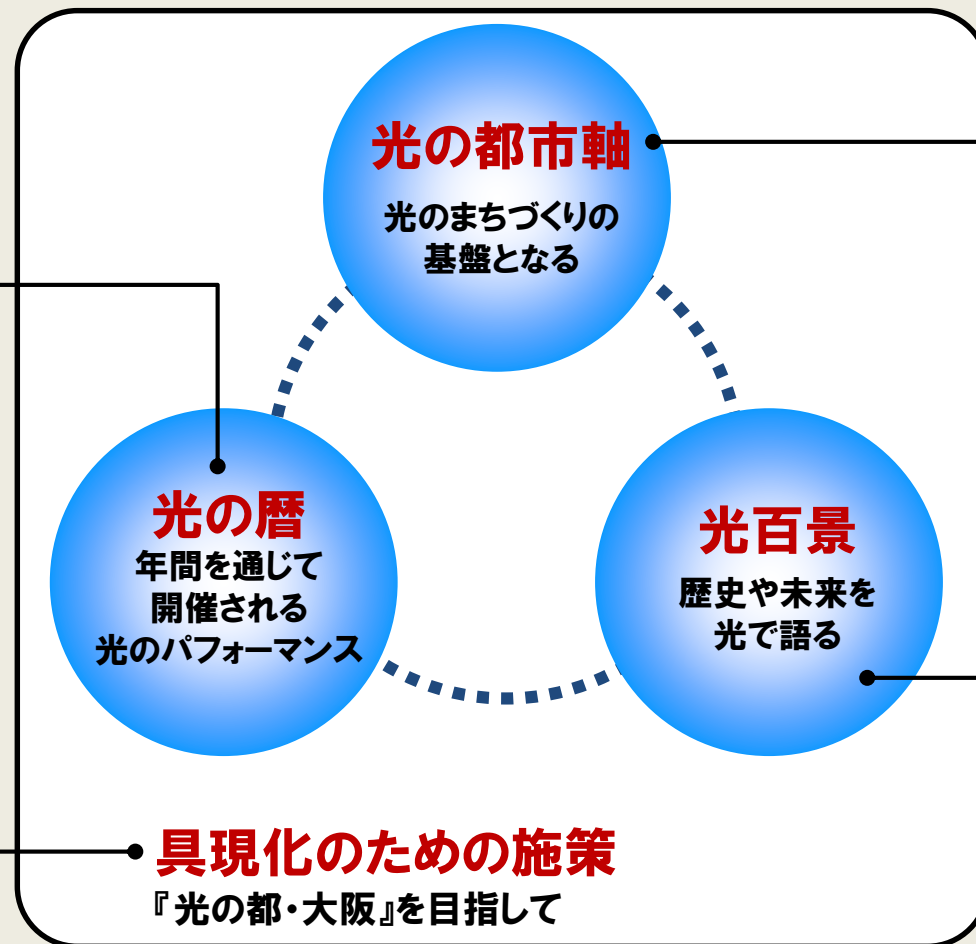
光の暦

- 四季の特徴を活かした個性あるイベントを継続的に展開
- 経済的・効率的なイベントのためのインフラ整備への取り組み
- 光の都市軸への波及スキーム構築(イベントを活用した実験的試み)

具現化のための施策

- 光のまちづくり企画推進委員会が関係者間の調整役、相談窓口となる
- 調和のとれた光環境整備の実現のため、情報交換会の定期開催。
- 照明技術の最新動向などについての勉強会

『光のネックレス構想』



光の都市軸

- 「光の東西軸」「光の南北軸」「光の回廊」に加え、面的な広がりをもつ「光の庭」として展開を拡大(例:船場近代建築ライトアップなど)
- 都市開発や再生事業等において光を大阪の個性とするための緩やかな「参考技術指針」の策定
- 「水都大阪夢ビジョン」、「海の御堂筋」構想等と連動したエリアの拡大

光百景

- 施設管理者や民間開発者に対する「光のまちづくり」の理解促進を図るための情報発信の強化
- 国内外への情報発信(プロモーション)の継続、拡大
- 情報集約機能の充実

※『大阪光のまちづくり2020構想』 光のまちづくり第3フェーズ・アクションプラン より

『大阪光のまちづくり2020構想』の概要

光の都市軸

1)光の東西軸

東は大阪城エリア、天満・桜ノ宮エリアの一带とし、中之島を経て、西はUSJ、天保山へと続く、大川・堂島川・土佐堀川に沿った軸。咲洲・夢洲地区までを含む。

2)光の回廊

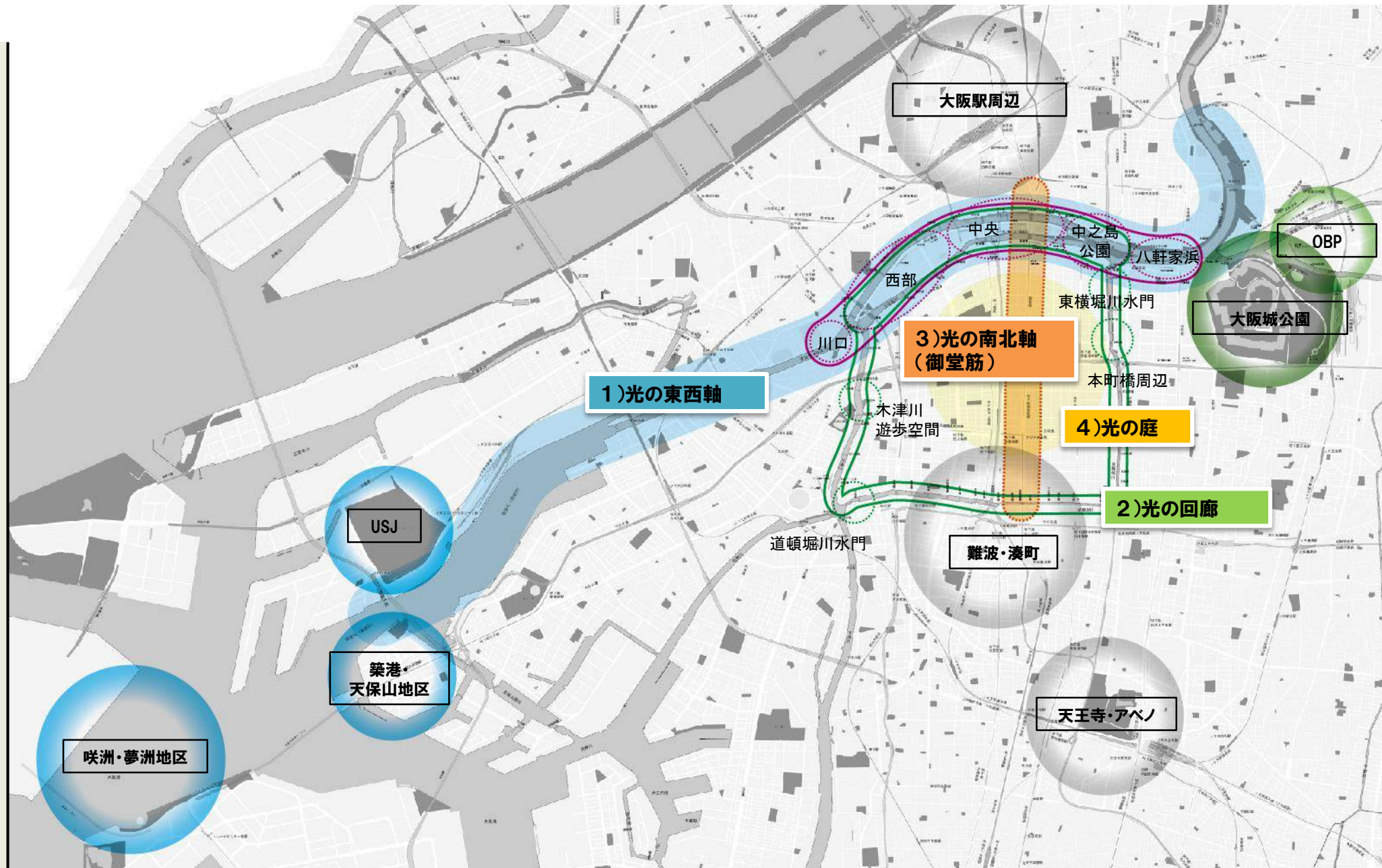
八百八橋と呼ばれる大阪の資産である多数の橋が架かる、水上の回遊動線。

3)光の南北軸 (御堂筋)

大阪駅周辺エリアを北端とし難波・湊町、更には天王寺・アベノまでを南端とした御堂筋を中心とする軸線。

4)光の庭

光による新たな魅力創出を担う面的な広がり。個性的な近代建築や、緑豊かな公園などを対象とする。



新たなエリアとして位置づけ第3フェーズにおいて検討するエリア



ベイエリア



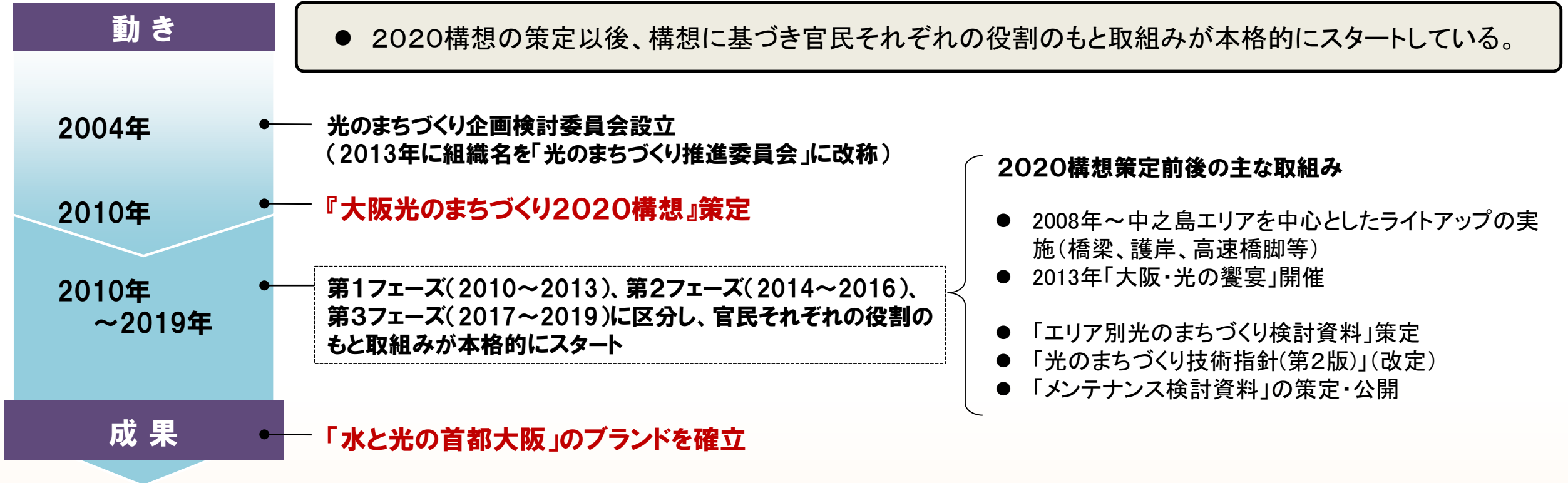
大阪城
エリア



その他

- 《項目1》 光のランドデザインの具体的な方向性の策定「光の都市軸」において示した、新たなエリアへの拡大については、ベイエリアと大阪城エリア（OBPエリア含む）を新たなエリアとして位置づけ、第3フェーズにおいてエリアマネジメント等との協働推進により、各エリアのコンセプトを踏まえガイドラインに基づく計画・指針を策定の検討を行う。
- その他のエリアについても合わせて、地域との交流、対話を通じて地域における特徴を光によって際立たせ、地域のブランド向上を図る光の創出を目指すものとする。

『大阪光のまちづくり2020構想』に基づく動きと成果



光のランドデザイン別の成果			仕組みなど
光の都市軸	光の暦	光百景	
<p>光のまちづくりの基盤 〔良質な日常の夜間景観の形成〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 官民が一体となってエリアの価値向上を促す光景観を創造 ● 日常の光として365日楽しめる風景の確立 ● 民間投資(民間によるライトアップや光資源を活用した新たな民間ビジネス等)の誘発 	<p>年間を通じて開催される 光のパフォーマンス 〔風物詩となる風景の創出〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 大阪活性化に向けた官民協働によるモデル事業の創出 ● 多様な主体による非日常の光が四季折々の魅力を形成 	<p>歴史や未来を光で語る 〔ブランディングプロモーションの推進〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 国内外に向けたブランディングプロモーション ● 関西広域が連携した光のまちづくりの交流 <p>(例) 関西・光ネットワーク交流会議での関西近隣都市との連携、新光百景アワードや大阪夜景フォトコンテストの開催、ぐるなびとのコラボ企画であるOSAKA光ミールクーポンの発行</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 官民連携体制の構築 ● 行政計画への夜間景観の位置づけ(大阪市景観計画・大阪市景観読本) ● 「メンテナンス検討資料」の策定・公開による永続的な夜間景観の促進

光のランドデザイン(光のまちづくりの3つのファクター)

光の都市軸

光のまちづくりの基盤〔良質な日常の夜間景観の形成〕

- 「光の東西軸」「光の南北軸」「光の回廊」に加え、面的な広がりを「光の庭」として展開を拡大
- 都市開発や再生事業等において光を大阪の個性とするための緩やかな「参考技術指針」の策定

〔取組み成果〕

- 官民が一体となってエリアの価値向上を促す光景観を創造
- 日常の光として365日楽しめる風景の確立
- 民間投資(民間によるライトアップや光資源を活用した新たな民間ビジネス等)の誘発

水と光のシンボルエリアである中之島エリアにおいて、橋梁や護岸のライトアップを中心とした多様な光資源が創出された結果、日常の光として365日楽しめる風景が確立されつつあり、またこうした取組みを通じて、民間投資(民間によるライトアップや光資源を活用した新たな民間ビジネス等)の誘発が見え始めている。



官民が一体となって都市の価値向上を促す光景観を創造



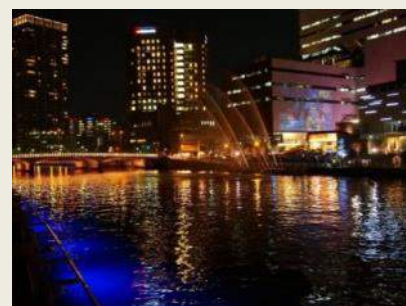
橋梁・護岸ライトアップ



水辺・光を活用した民間ビジネス



魅力的な夜間の視点場



官民の資源を活用したイベント



ナイトクルーズの増便



民間ビルのライトアップの広がり



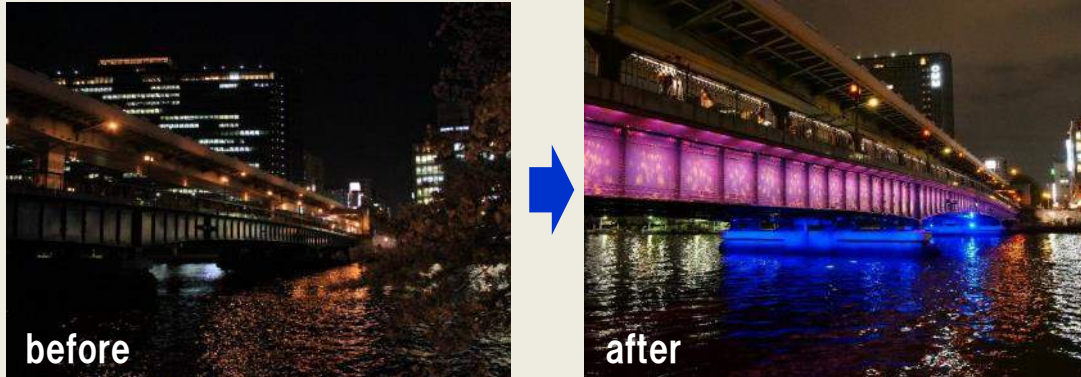
官民による調和のとれた光景観

光の都市軸

光のまちづくりの基盤〔良質な日常の夜間景観の形成〕

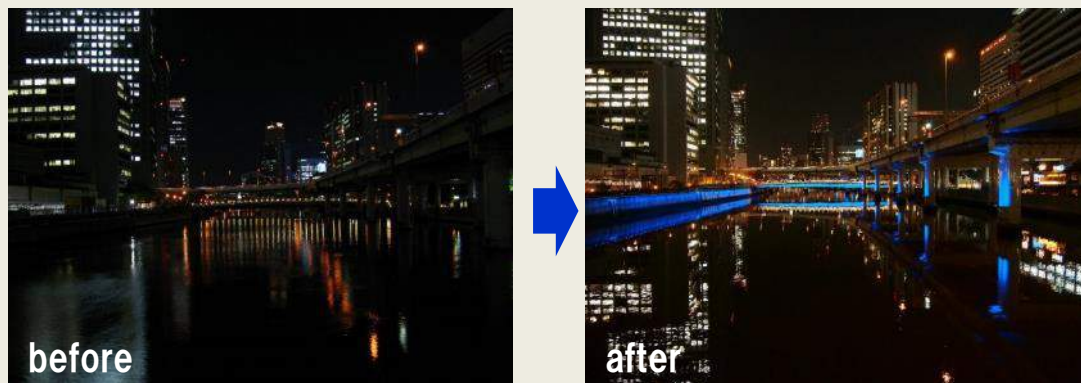
橋梁

光の東西軸 中之島：八軒家浜エリア(天満橋)



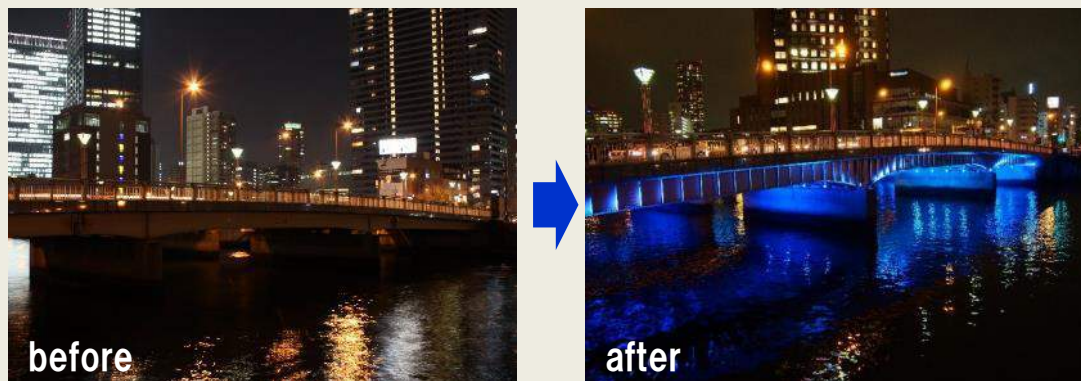
- 水都大阪を生み出した「天が満つる光の架け橋」というコンセプトのもと、ストーリー性を持たせたライトアップを実施。

光の東西軸 中之島：中之島中央エリア(中之島ガーデンブリッジ周辺)



- 中之島GB、大江橋、護岸、高速橋脚のライトアップによって360度の夜間景観を形成。府(護岸)、市(橋梁)、阪神高速道路(株)(橋脚)間で調整を行い、色調やプログラムを統一。

光の東西軸 中之島：中之島西部エリア(玉江橋)



- 「“玉”と“ホテル”」「世界に広がる“水都大阪”と、おもてなしの“和の灯り”」をテーマとしたライトアップを実施。

護岸

光の東西軸 中之島：中之島中央エリア(中之島公園水上劇場前護岸)



- 北浜のにぎわいや水都の水の流れ、ガス燈の明かりをイメージし整備が行われている。

光の東西軸 中之島：中之島西部エリア(福島浜緑道)



- 既設照明灯色温度の改善とともに、桜や松のライトアップが行われている。

遊歩道等

建築物



芝川ビル



ダイビル本館

1. はじめに～取組み経緯『大阪光のまちづくり2020構想』

光のランドデザイン(光のまちづくりの3つのファクター)

光の暦

年間を通じて開催される光のパフォーマンス〔風物詩となる風景の創出〕

- 四季の特徴を活かした個性あるイベントを継続的に展開
- 経済的・効率的なイベントのためのインフラ整備への取り組み
- 光の都市軸への波及スキーム構築(イベントを活用した実験的試み)

〔取組み成果〕

- 大阪活性化に向けた官民協働によるモデル事業の創出
- 多様な主体による非日常の光が四季折々の魅力を形成

光の暦のキーワードである年間を通じて開催される光のパフォーマンスについては、「OSAKA光のルネサンス(2003年～)」と「御堂筋イルミネーション(2009年～)」、その他周辺都市で開催されている光のイベントをパッケージ化した「大阪・光の饗宴(2013年～)」の開催が最も大きく、これにより大阪活性化に向けた官民協働によるモデル事業の創出、そして、「中之島ウエスト・冬ものがたり」をはじめとした、多様な主体による非日常の光が四季折々の魅力を形成すること等につながっている。



大阪・光の饗宴



OSAKA光のルネサンス(ウォールタペストリー)



御堂筋イルミネーション
(大阪・光の饗宴2019開宴式後)



中之島ウエスト・冬ものがたり



平成OSAKA天の川伝説

光のグランドデザイン(光のまちづくりの3つのファクター)

光百景

歴史や未来を光で語る〔ブランディングプロモーションの推進〕

- 施設管理者や民間開発者に対する「光のまちづくり」の理解促進を図るための情報発信の強化
- 国内外への情報発信(プロモーション)の継続、拡大
- 情報集約機能の充実

〔取組み成果〕

➤ ブランディングプロモーション手法・ツールが整いつつある

光の暦に関する取組みのキーワードである国内外への情報発信、プロモーション活動については、書籍の発行をはじめ、ウェブサイトやSNSによる情報発信、「光の首都・大阪map」を活用したインバウンドへの情報発信、関西・光ネットワーク交流会議での関西近隣都市との連携、新光百景アワードや大阪夜景フォトコンテストの開催、ぐるなびとのコラボ企画であるOSAKA光ミールクーポンの発行、そして、LUCIを介した「光の首都大阪」の発信等の取組みを行っている。

このように2020構想の策定以降では、情報発信媒体の整備とともに関西・光ネットワーク交流会議等の活動の連携やネットワーク強化に取組み、ブランディングプロモーション手法・ツールが整いつつある状況にある。



「光のまちづくり」ウェブサイト及びfacebook



ミールクーポン
書籍「光のまちをつくる」



関西光ネットワーク交流会議



大阪夜景フォトコンテスト



LUCI年次総会での大阪・光のまちづくりプレゼン(中国・広州)



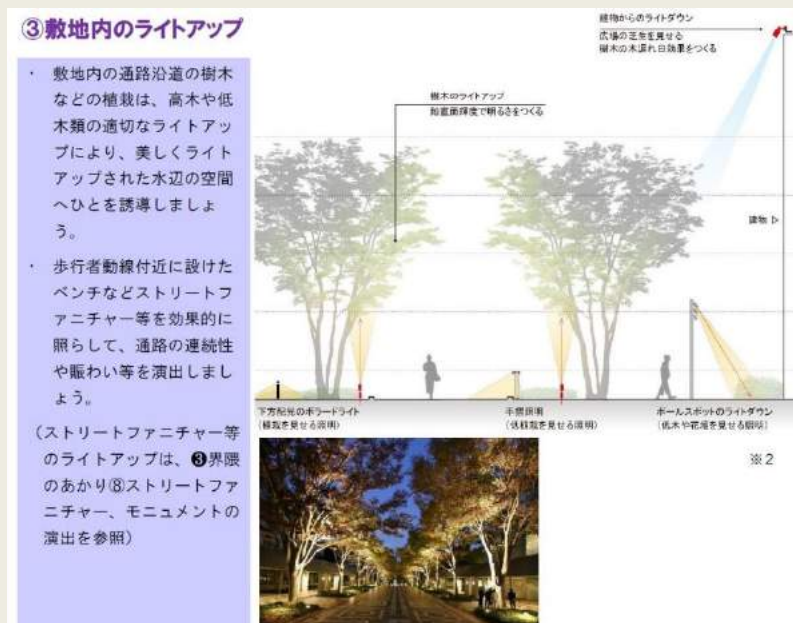
光の首都・大阪map(日本語・英語・中国語簡体字・韓国語版)

『大阪光のまちづくり2020構想』のその他の成果

- 前述の通り、大阪光のまちづくり2020構想(以下「2020構想」)の策定後、官民それぞれの役割のもと光のランドデザインを構成する要素である「光の都市軸」「光の暦」「光百景」別に光のまちづくりを取組みを行っている。
- この官民による取組み体制とプロセスこそが、構想策定による最大の成果であると考えられ、その結果、「光の都市軸」に基づく橋梁のライトアップをはじめとした光景観の形成、「光の暦」に基づく光のルネサンス(2003年～)と御堂筋イルミネーション(2009年～)を融合した集客・発信力のある「大阪・光の饗宴(2013年～)」の開催、「光百景」に基づく大阪夜景フォトコンテストの開催等の情報発信力の強化といった成果が得られている。
- そのほかにも、大阪市景観計画に夜間景観という項目が追加され景観誘導が図られるとともに、同景観計画の副読本である大阪市景観読本において夜間景観に係るガイドラインが示されるなど、行政計画に夜間景観が位置づけられたことや、ナイトクルーズの運行や夜間の眺望景観をセールスポイントとした店舗が創出されるなど、民間ビジネスに光資源が活用されていることが、構想策定による大きな成果であると考えられる。

〔公共施策〕 行政計画への夜間景観の位置づけ

- 大阪市景観計画における夜間景観の誘導、「光のまちづくり技術指針」の大阪市景観読本(夜間景観ガイドライン)への展開



大阪市景観読本
令和3年4月
(夜間景観ガイドライン)

〔民間ビジネス〕 光資源を活用したビジネス

- ナイトクルーズの運行や夜間の眺望景観をセールスポイントとした店舗の創出

	カテゴリ	民間による光資源の活用例
1	舟運	ナイトクルーズ
2	商業	北浜テラス、ラブセントラルからの眺望
3	イベント	中之島ウエスト冬物語
4	民間ビル	ダイビル、フェスティバルタワー



夜桜クルーズ



北浜テラス



中之島ウエスト冬物語

中之島の地価向上



中之島5-3-81 出典:住友不動産販売HP

※大阪の他地域も上昇しているが、中之島は伸び率が高い

中之島の人口の増加



※大阪市住民基本台帳を基に光のまちづくり推進委員会作成

※2017年中之島6丁目にタワーマンション(ザ・パークハウス中之島タワー)竣工

中之島の光景観形成により、地価向上、人口増加、商業施設・集合住宅開発活発化などの効果が見られる



都市開発の活発化

- 2008 ほたるまち
- 2009 中之島ダイビル
- 2009 N.4TOWER
- 2012中之島フェスティバルタワー

- 2013 ダイビル本館
- 2014 三井ガーデンホテル中之島プレミア
- 2017 中之島フェスティバルタワー・ウエスト
- 2018 ザ・パークハウス中之島タワー

- 2020 こども本の森 中之島
- 2022 大阪中之島美術館
- 2024 未来医療国際拠点
- 2026 福島2丁目PJ(仮称・マンション)

『大阪光のまちづくり2030構想』

方向性の検討



構想の背景

社会情勢の変化

- 新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン化が進展～ニューノーマル時代の到来(生活・働き方の多様化)
- 注目されるオープンエア、「密」を回避する取組が推進される(コロナ占用特例など)
- 賑わいや交流の在り方、人流経路や滞留時間の変化

社会情勢の変化に対応した光のまちづくり

持続可能な開発のための2030アジェンダ

- 2025年大阪・関西万博の開催意義「SDGs達成・SDGs+beyondへの飛躍の機会」「Society5.0実現に向けた実証の機会」
- 万博を契機としたSDGsに貢献する持続可能な光のまちづくりへの転換が必要
- 光のまちづくりを持続可能な取組みとする仕組みづくりが必要

SDGsに貢献する光のまちづくり

【前提】

水と光の首都大阪

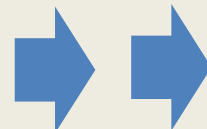
(歴史) × (社会) = (新しいものの創出)

光が「水の都」に果たすべき役割は、「大阪らしさ」を際立たせる事であり、その結果、「水の都・大阪」を通じて、「光」への関心を高め、光のまちづくりに繋げていく事。
単に水と調和した景観を生み出すだけでなく、新たな文化や産業・技術にスポットを当てる事が光の意義。

2030年に向けた方向性 「水と光の首都大阪のブランド」

2020構想

ブランドの確立



永続化

2030構想

「浸透・発信」 (取組みの発展・拡大)

光のまちづくりに関する新たな仲間、関わりある人々を増やす

～官民の総合力で牽引～

光のまちづくりを取巻く環境変化に対応するとともに、
これから10年の光のまちづくりは、2025年大阪・関西万博を見据えながら「水と光の首都大阪」をよりオンリーワンに輝かせ、期待感を喚起していく必要がある。

大阪光のまちづくり2030構想 2021～2030年

<全体構成>

光の都市軸	光の暦	光百景
1. 海と川を包含する「水と光の東西軸」の創出	2. 大阪都心での官民共創による夜間景観形成	3. 情報発信と情報共有のためのプラットフォームづくり
(1) 中之島夜間景観の質の向上と持続化 (2) 中之島の新たなエリアへの夜間景観の波及・展開 (3) 海とまちを繋ぐ『光の海道』	(1) エリアの個性を際立たせる夜間景観創出 (2) 行政計画等との連携を図る (3) 大阪・光の饗宴等、四季の特徴を活かした個性あるイベントを継続的に展開	(1) ITを活用したコミュニケーションデザイン (2) 関西各地域との光の情報連携

景観の持続化とクオリティの向上に向けて **アドバイザー制度の検討**

関連計画との連携

水都大阪ビジョン

第3フェーズ

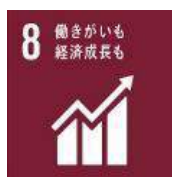
- 水の回廊の更なる活性化【深み・厚み】
- ベイエリアや淀川舟運との連携【広がり】
- 人々が集う水辺ライフスタイルの定着【つながり】

「SDGsの達成に向けた光のまちづくり」の定義

- 光のまちづくりにおいては持続可能な社会を実現するため、グローバル目標であるSDGsの取組みへの貢献が必要。
- 夜間景観に繋がるテーマを以下のとおり厳選し、2030年だけでなく2025年にも目標を据え今後の光のまちづくりに反映。



7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに
8. 働きがいも経済成長も
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう



11. 住み続けられるまちづくりを
12. つくる責任つかう責任
17. パートナーシップで目標を達成しよう

2. 2030構想の検討について

(1)中之島夜間景観の質の向上と永続化

中之島における夜間景観は2008年より徐々に広がりを見せ、新たな大阪の都市ブランドを牽引する都市景観として定着している。
この成功例を大阪全体へ波及するために、その効果成果と共に、現状把握と課題抽出に基づき、質の向上と永続化に取り組むことが求められる。

大阪光のまちづくり2020構想による
中之島の夜間景観の効果成果

地価の向上や住宅及び企業進出
都市格の向上
観光振興
シビックプライドの醸成

	<現状>	<課題>
①まちづくりとの連携	<ul style="list-style-type: none"> ●橋梁や護岸のライトアップを実施している大川・堂島川では、隣接している企業ビルもライトアップを実施 ●橋梁ライトアップと連携した民間主催のイベントの開催 	<ul style="list-style-type: none"> ■光のまちづくりとしての光のまちづくりの関係者同士の対話不足により色彩や照度などの調和が図られていない ■視点場の検証不足⇒船の視点を考えるとビルと橋梁などのライトアップ時間が異なるため連携しない等
②一体的な光演出	<ul style="list-style-type: none"> ●橋梁や護岸の点灯時間を23時までで統一 ●1時間に1回の調光演出(可能な箇所のみ) ●季節の催事などとの演出の連携(天神祭など) 	<ul style="list-style-type: none"> ■各設備のプログラムシステムが異なるため簡単に変更ができない ■通常管理と異なるプログラム技術が管理者側に不在
③コンセプトの統一	<ul style="list-style-type: none"> ●2020構想では、各エリアの歴史や産業等の個性や特徴を活かしたコンセプトを策定 ●ライトアップ箇所(橋など)の価値を活かすための地域との対話やワーキングを開催 	<ul style="list-style-type: none"> ■2020構想で検証していなかった場所のライトアップも実施しているためコンセプトの統一感にかける(地域との対話も不足) ⇒ストーリー性が不足
④環境への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●LED照明を活用することで、エネルギーの使用量を削減 ●アジェンダによる演出管理の軽減、また灯具使用時間の管理を明確化 	<ul style="list-style-type: none"> ■当時の最先端技術であったLEDの利用であったため、耐用年数を経過したLEDの更新についての検証が不足 ■専門性の高い調光システムやプログラムの管理体制などの検証が不足

方向性 中之島全体として包括するストーリーによる地域に愛される光景観のブラッシュアップ

①ストーリーのブラッシュアップ

- 中之島をエリアの特徴別にゾーニングした上でコンセプトを再考
- まちづくり団体や地域との交流・対話等

②色彩や演出のブラッシュアップ

- 統一感ある色彩や調光演出の検討
- プログラムシステムのブラッシュアップ

③維持管理とメンテナンスのブラッシュアップ

- LED更新に向けた技術検証
- アジェンダシステムのブラッシュアップ
- 新たなメンテナンスマニュアル(ガイドライン)の策定
- 遠隔操作の導入検討

④得られた経済効果による質の向上、永続的な光のまちづくりに資する仕組みづくり

- 永続的な取組みを担保する費用負担のあり方の検討
- 公共施設と民間施設が一体となった光景観づくり

2. 2030構想の検討について

1. 海と川を包含する「水と光の東西軸」の創出

(1)中之島夜間景観の質の向上と永続化 ①ストーリーの見直し

【ライトアップコンセプト】

水都大阪を代表する水の都・光の都



③ 中之島中央エリア
【近代大阪の風格が残る空間】

- 光の東西軸と光の南北軸(御堂筋)が交差する都市軸の結節点で、橋梁、護岸など数多くのライトアップ整備が行われている。
- 大阪市中央公会堂、日本銀行大阪支店などの近代建築が集積し、近代大阪の風情が漂うエリア。
- 土佐堀川南側には北浜テラスが展開され、堂島川北側には大阪府により民間商業施設が開業している。

④ 中之島公園エリア
【自然にふれる都心の憩い空間】

- 中之島公園を中心に、近年ではこども本の森 中之島が開館するほか、中之島通の歩行者空間化(公園化)が行われ、市民の憩いの場としてのポテンシャルが一層高くなっている。
- 中之島中央エリアとともに、光のルネサンス時にはインタラクティブな光の演出が行われている。

① 川口エリア
【海と川との結節点 ~大阪の玄関口~】

- 旧居留地など大阪発展の礎となった地。
- 大阪の食文化を支える中央卸売市場をシンボルに持つ、海に開かれた中之島の西玄関。
- 中之島ゲートパーク海の駅が整備され、「海と川の結節点」として食、レジャーなどの多様なサービスが充実する。

② 中之島西部エリア
【現代大阪を代表する文化・交流・住居空間】

- 大阪国際会議場、放送局、サテライト大学院、リーガロイヤルホテルなどが立地するとともに、超高層のマンション開発により新たな都心住居エリアも形成している。
- 大阪中之島美術館、未来医療国際拠点、なにわ筋線などの新たなプロジェクトが進められている。

⑤ 八軒家浜エリア
【水都大阪の新たな魅力、品位ある落ち着いた光景観】

- 緑豊かな南天満公園・毛馬桜之宮公園、河川幅員が100mを超える大川がゆったり流れる、都心では珍しい豊かな自然が感じれるエリア。
- 加えて熊野古道の起点となる八軒家浜や天神祭のメイン会場など、歴史の香りを感じることができる水都大阪の東の玄関。

2. 2030構想の検討について

1. 海と川を包含する「水と光の東西軸」の創出

(1) 中之島夜間景観の質の向上と永続化 ①ストーリーの見直し

中之島エリア ① 川口エリア

海と川との結節点 ～大阪の玄関口～

〔エリアの現状〕

- 大阪開港の地。大阪税関の前身となる川口運上所、外国人居留地の設置など近代大阪の礎をなす地域。
- 中之島西の剣先の両サイドには、港湾の名残となる倉庫街、対岸には大阪の食を支える大阪市中央卸売市場本場が位置し、それぞれを2つの橋梁(端建蔵橋と船津橋)により結ばれている。
- 安治川左岸の中之島GATE(サウスピア)では、水都大阪の賑わい事業の社会実験が実施され、右岸(ノースピア)では、大阪ふくしま中之島ゲート海の駅が開業している。

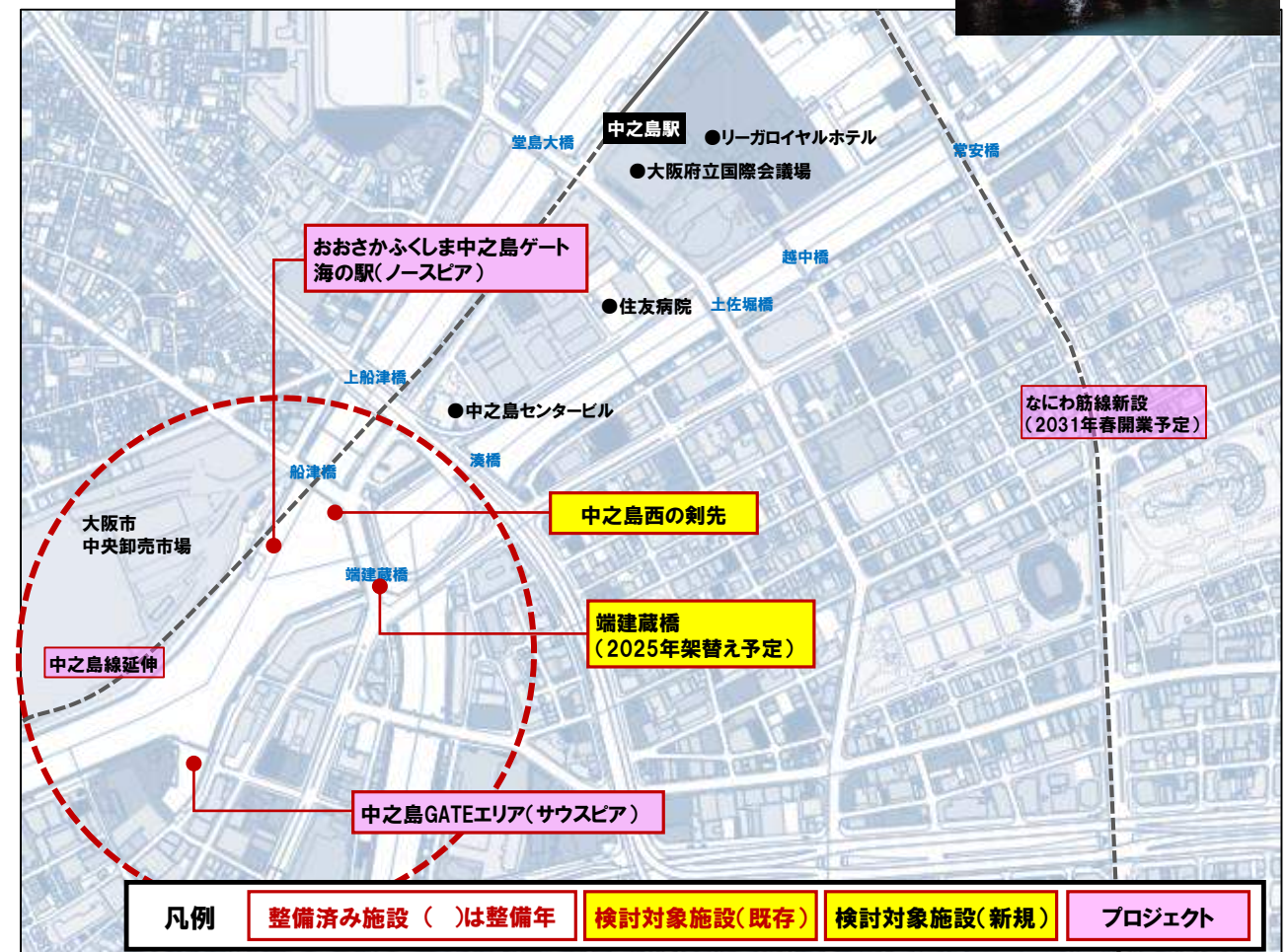
※中之島GATEエリア(サウスピア)は、中之島GATEターミナル整備に関するサウンディング型市場調査を実施中(R3.7.30～R3.9.10)



川口エリア



川口エリア



凡例

整備済み施設 ()は整備年

検討対象施設(既存)

検討対象施設(新規)

プロジェクト

〔今後の検討の方向性〕

- 「大阪の玄関口」として、2025年大阪・関西万博時に出来上がっているもの(施設等)を整理
- 上記を踏まえた光の在り方と視点場の検証が必要

2. 2030構想の検討について

1. 海と川を包含する「水と光の東西軸」の創出

(1) 中之島夜間景観の質の向上と永続化 ①ストーリーの見直し

中之島エリア ② 中之島西部エリア

現代大阪を代表する文化・交流・住居空間

〔エリアの現状〕

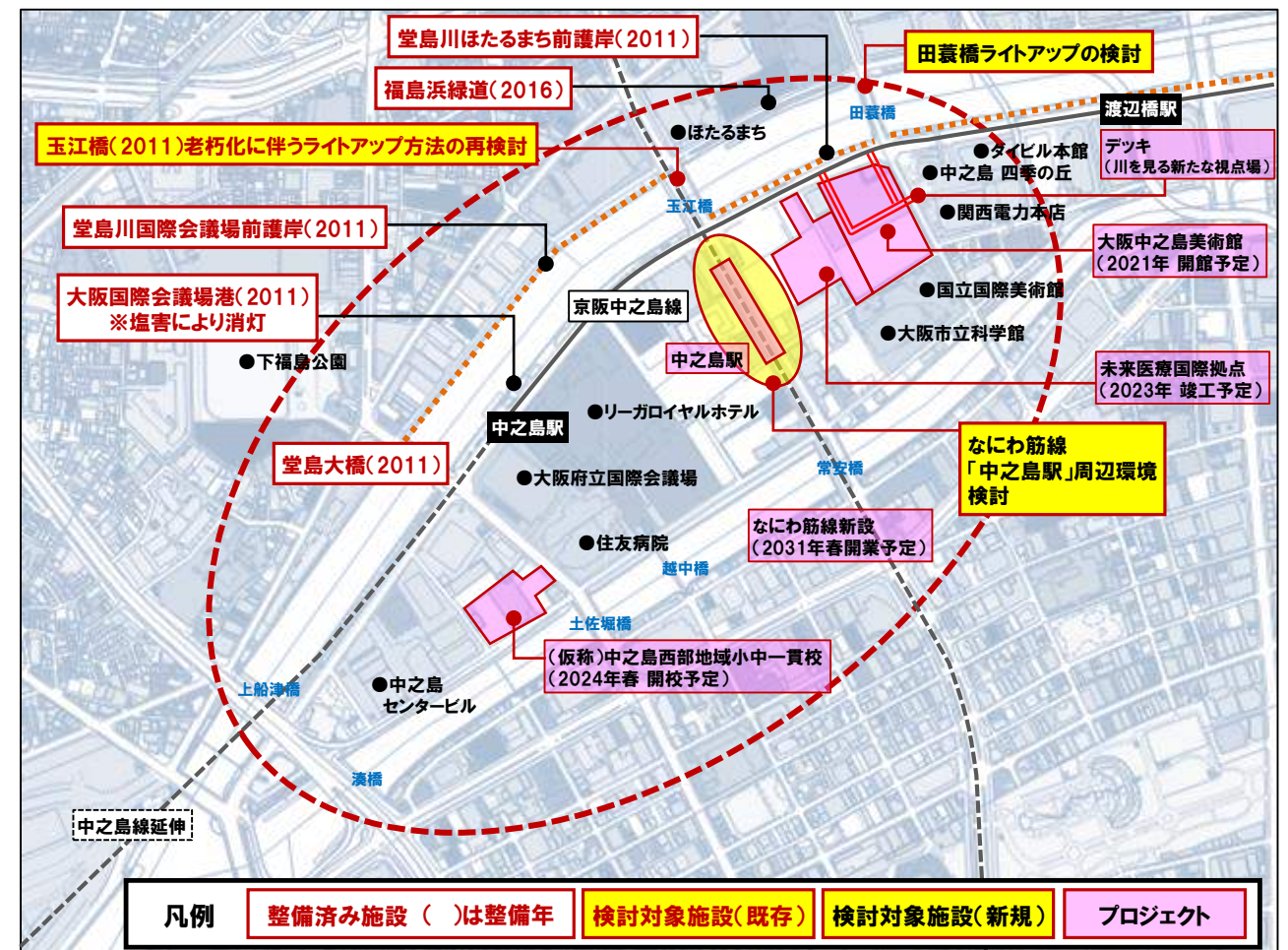
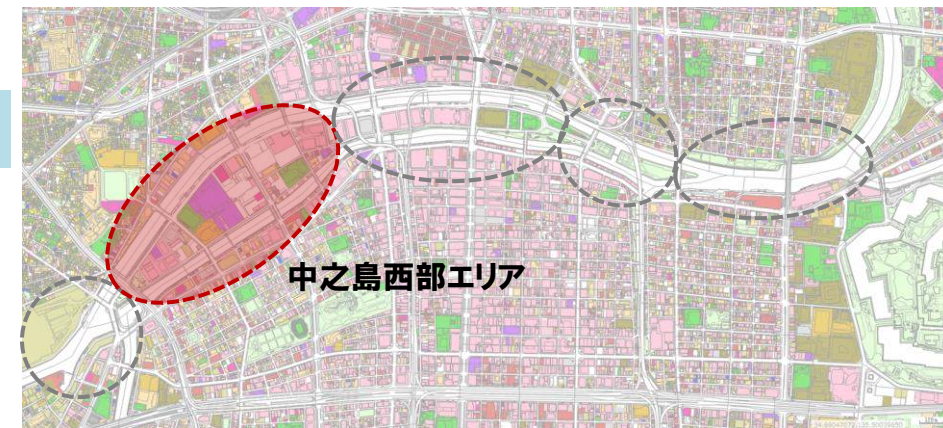
- 現代大阪を代表する文化・交流エリアで、大阪国際会議場、国立国際美術館、市立科学館、大阪中之島美術館(2022.2月開館予定)など、大型の文化施設が立ち並んでいる。近年では超高層マンション開発が行われ、新たな都心居住エリアを形成している。
- 大阪中之島美術館のほかにも、未来医療国際拠点、(仮称)中之島西部地域小中一貫校といったプロジェクトが進展し、なにわ筋線新設や中之島線延伸といった鉄道事業の計画も検討されている。
- 光の資源を見ると、堂島大橋、玉江橋、大阪国際会議場前護岸、福島(ほたるまち)港、福島浜緑道等、光のまちづくり2020構想をふまえて整備が行われているエリアである。
- 非日常の光としては、中之島ウエスト・プロモーション連絡会により、玉江橋、福島港、ほたるまちを一体的に活用した取組みが冬を中心として行われている。



中之島美術館



ほたるまち



〔今後の検討の方向性〕

- 大阪中之島美術館前デッキ、なにわ筋線新駅周辺など新たな風景・視点場の創出
- 玉江橋の老朽化に伴うライトアップ方法の再検討
- 田蓑橋のライトアップの検討

2. 2030構想の検討について

1. 海と川を包含する「水と光の東西軸」の創出

(1) 中之島夜間景観の質の向上と永続化 ①ストーリーの見直し

中之島エリア ③ 中之島中央エリア

近代大阪の風格が残る空間

〔エリアの現状〕

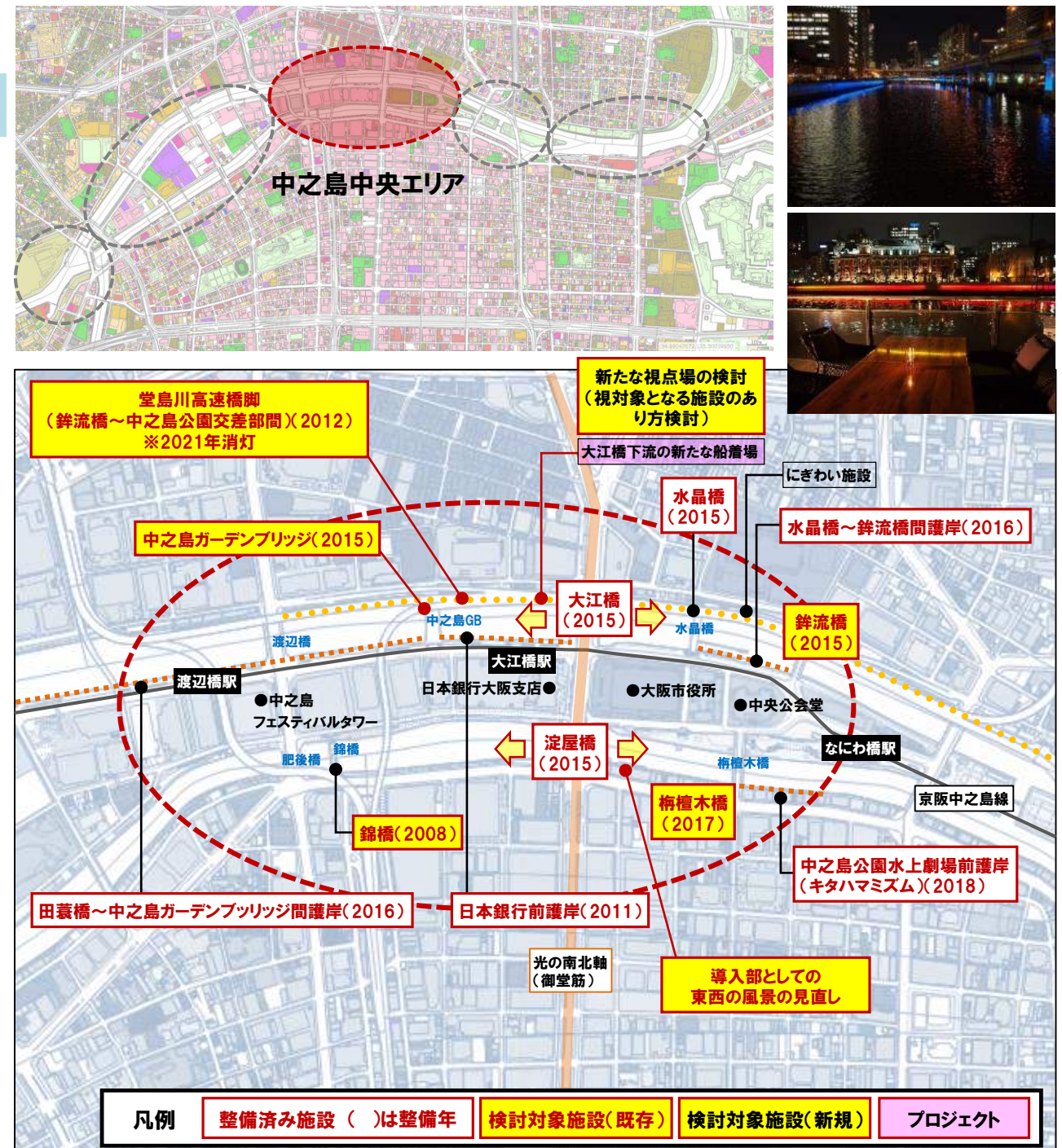
- 中之島中央エリアは、光の東西軸と光の南北軸(御堂筋)が交差する都市軸の結節点であり、その南には光の庭が隣接することから、「光の首都大阪」のファサード～玄関口として位置づけられる。
- この光の南北軸(御堂筋)を起点として、西部はフェスティバルタワーなどにより大阪の新たな都市景観を形成、東部は中之島公園を舞台として都会の自然感を際立たせる親水空間を形成している。
- 2020構想の第2フェーズアクションプランでは、西側をクリエイティブな光(中之島西部のゲートとして新しく動きのある光)、東側を資源をリスペクトする光(中央公会堂や船場の近代ビル建築と調和する落ち着いた光)として区分している。
- 中之島西部エリアと同様に、橋梁や護岸、近代建築などがライトアップされており、また、冬季には「大阪・光の饗宴(御堂筋イルミネーション・OSAKA光のルネサンス)」が開催され、非日常の光が多くの来訪者を魅了する空間を形成している。

中之島
フェスティバルタワー

日本銀行大阪支店



大阪市役所



〔今後の検討の方向性〕

- 御堂筋を南北軸、中之島を東西軸とし、それぞれの導入部としての東西の風景の見直し
- 南北軸から東西軸へ、東西それぞれの街への期待感を醸成する橋梁(梅檀木橋、錦橋など)・周辺のライトアップを再検討(改良・プログラムの統一など)
- 船着場ができることから、新たな視点場の検討

中之島エリア ④ 中之島公園エリア

自然にふれる都心の憩い空間

[エリアの現状]

- 中之島公園を中心としたエリアで、ばら園や芝生広場といった市民の憩いの場として多くの緑地を有するとともに、近年ではこども本の森中之島が2020年に開館するほか、「OSAKA光のルネサンス」の会場となる中之島通の歩行者空間化(公園化)が行われている(2021年完成)。
- この中之島通の歩行者空間化により、今後多様な賑わいの創出が見込まれる。
- 沿川を見ると、堂島川右岸側には遊歩道が整備されており、また、土佐堀川左岸側には中之島をゆっくりと眺望のできる川床「北浜テラス」が点在している。



中央公会堂



中之島公園



中之島公園エリア



[今後の検討の方向性]

- 現状検証を含め、専門家の意見を聴きながら中之島公園の夜間景観向上を検討

2. 2030構想の検討について

(1) 中之島夜間景観の質の向上と永続化 ①ストーリーの見直し

中之島エリア ⑤ 八軒家浜エリア

水都大阪の新たな魅力、品位ある落ち着いた光景観

[エリアの現状]

- 中之島公園、南天満公園、毛馬桜之宮公園といった都心部の貴重な自然を有する八軒家浜エリアは、熊野古道や天神祭といった歴史の香り高い、水都大阪の新たな魅力を発信するエリアである。天神祭の船渡御をはじめ、近年では「平成OSAKA天の川伝説」などが開催され、水都大阪を代表する拠点として定着している。
- 橋梁、公園をはじめとした都市資源へのライトアップが行われ、中之島東玄関としておもてなしと驚きの夜間景観を創造しており、光によるエリアの魅力づくりはほぼ完成形に近いと考えられる。
- 天満橋上流部は、春の風物詩である「造幣局の通り抜け」開催時には桜並木のライトアップが行われ、賑わいのある風景を形成している



天神橋



天満橋



南天満公園



川崎橋と毛馬桜之宮公園



八軒家浜エリア



[今後の検討の方向性]

- 大阪城に繋がる風景も含め、東側(川崎橋まで)へのエリア拡大
- 暗い天神橋周辺における新たなライトアップの検討(天神橋スロープなど)

2. 2030構想の検討について

(1) 中之島夜間景観の質の向上と永続化 ② 色彩や演出の見直し

中之島エリア **共通** 橋梁・護岸

	橋 梁	護 岸
現状	<ul style="list-style-type: none"> ● 場の個性を打出すコンセプトによるライトアップを実施。 ● 調光システム・プログラムは個々で異なる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 段階的に整備が行われてきたため、区間によって多様な色彩や動きが見られるほか、調光システム・プログラムが異なる。
今後の検討の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ● 従来通り、場の個性を打出す配色・演出 ● 劣化施設の更新検討 	<ul style="list-style-type: none"> ● 連続する軸として中之島全体に係るコンセプトの再検討(まちや水を際立たせる統一感ある光演出) ● 劣化施設の更新検討
照明色	<ul style="list-style-type: none"> ● 従来通り、場の個性を打出す配色・演出 	<ul style="list-style-type: none"> ● 明るさを確保する単色による光の検討を行う(具体的な色は引き続き検証～実際の色味と写真が際立つ色味)。
新設等の検討	<ul style="list-style-type: none"> ● 端建蔵橋(川口エリア参照) ● 田蓑橋(中之島西部エリア参照) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 一部区間の延伸検討(下図参照)
演出方法 (時間演出含む)	<ul style="list-style-type: none"> ● 調光システムの共通化、管理・運営の負担を軽減するマニュアル作成を検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 調光システムの共通化、管理・運営の負担を軽減するマニュアル作成を検討。 ※調光を行わない等も検討

● 演出時間の相互調整



2. 2030構想の検討について

(1)中之島夜間景観の質の向上と持続化 ③維持管理とメンテナンスの見直し

- 光のまちづくりのシンボリックなエリアである中之島エリアでは、橋梁や護岸のライトアップの半数が点灯後LEDの耐用年数である10年以上経過している。

〔中之島エリアのライトアップ点灯年〕

※書籍「光のまちをつくる」年表を参照し一部加筆

特に2025年 万博時のあり方の検討が必要

点灯後約10年経過

万博時に約10年経過

	2020構想：第1フェーズ以前 (～2009年度)	2020構想：第1フェーズ (2010～2013年度)	2020構想：第2フェーズ (2014～2016年度)	2020構想：第3フェーズ (2017～2019年度)
橋梁	<ul style="list-style-type: none"> ● 錦橋(2008) ● 難波橋(2009) ● 天神橋(改修)(2009) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 天満橋(改修)(2011) ● 堂島大橋(2011) ● 玉江橋(2011) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 鉾流橋(2015) ● 大江橋、水晶橋、淀屋橋(改修)(2015) ● 中之島ガーデンブリッジ(2015) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 梅檀木橋(2017)
護岸	<ul style="list-style-type: none"> ● 南天満公園(護岸)(2009) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 堂島川ほたるまち前護岸(2011) ● 日本銀行前護岸(2011) ● 堂島川国際会議場前護岸(2011) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 水晶橋～鉾流橋間護岸(2016) ● 田蓑橋～中之島ガーデンブリッジ間護岸(2016) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 中之島公園水上劇場前護岸(キタハマミズム)(2018)
高速橋脚	<ul style="list-style-type: none"> ● 堂島川高速橋脚(大江橋～中之島ガーデンブリッジ間)(2008) ● 堂島川高速橋脚(渡辺橋～中之島ガーデンブリッジ間)(2009) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 堂島川高速橋脚(鉾流橋～中之島公園交差点間)(2012) 		
公園等／船着場	<ul style="list-style-type: none"> ● 中之島公園(剣先)(2009) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 南天満公園(公園樹木)(2010) ● 八軒家浜船着場(2011) ● 中之島ローズポート(2011) ● 福島港(2011) ● 大阪国際会議場港(2011) ● 中央卸売市場前港(2011) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 中之島にぎわいの森(2014) ● 中之島遊歩道・中之島通(改修)(2015) ● 福島浜緑道(改修)(2016) ● 中之島公園(改修)(2016) 	
	2003年12月「OSAKA光のルネサンス」開催 2009年8月～10月「水都大阪2009」開催 2009年12月「御堂筋イルミネーション」開催	2013年12月「大阪・光の饗宴」の開催		

船着場は塩害により消灯⇒

2. 2030構想の検討について

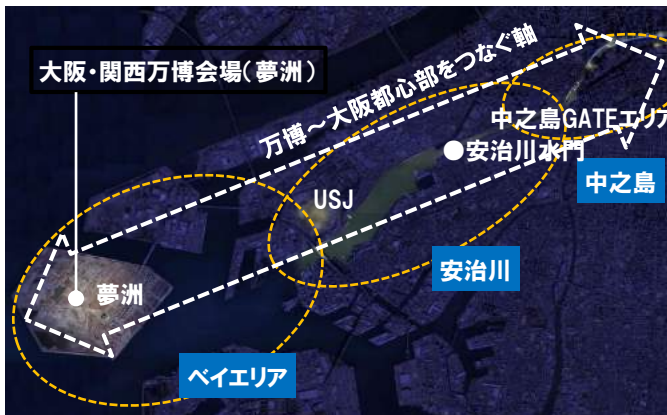
(3)海とまちを繋ぐ『光の海道』

(3)海とまちを繋ぐ『光の海道』

水都大阪では都心部河川を中心に展開してきたが、海とつながる中之島の河川が多くの歴史を紡ぎつなく軸でもあったことから、2025大阪・関西万博の開催を機会として、改めて大阪の魅力を海と川をつなぐ安治川に着目して検討。

海と川をつなぐ
安治川の魅力

大阪～京都へつながる玄関口
日本第一の大湊・川口
中之島と舞洲をつなぐ舟運ルート
大阪を守る安治川水門



	<背景・状況>	<検証>
①歴史的な視点	<ul style="list-style-type: none"> ●安治川東端部の川口は、海側から見て大阪都心部の玄関口であり、歴史的にも江戸期には「日本第一の大湊」と称され、明治期には外国に開放された大阪唯一の港であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ■現在は何も残っていないためライトアップ(際立たせる)ための対象物が不足している
②舟運の視点	<ul style="list-style-type: none"> ●海と川をつなぐ観光船は現在就航されていない ●船着き場はUSJ・福島港・夢洲等に存在 	<ul style="list-style-type: none"> ■臨港地区であることから倉庫や工場等が主となっているため観光としての光景観を創出するためにはエンターテイメントとしての光演出が求められることから、費用対効果が悪い
③安全安心の視点	<ul style="list-style-type: none"> ●安治川は江戸期に洪水対策のために開削された水路で、現在でも安治川水門により台風や高潮などの災害から市民の暮らしを守る機能を有している。 ●安治川水門のフォルムは世界的にも有名 ただし今後更新を予定している 	<ul style="list-style-type: none"> ■対象が現存していることからライトアップは可能。 ■国内外への安全安心のアピールは大阪の魅力向上につながる ■現在は認知度が低いいためブランディングが必要

方向性 新たな大阪の魅力と価値を創出するための戦略的なブランディング

2025大阪・関西万博時に国内外に向けて大阪の高い技術に裏打ちされた「安全安心都市」発信

「安治川水門名所化」=ライトアップと段階的なブランディングプロモーション=

①台風や高潮などの災害から市民を守ってきた高い技術と機能を持つ安治川水門の治水力防災力を発信

②万博に向けた大阪の安全・安心のシンボルとして様々なシーンで安治川水門をアピール=名所化=
※安治川水門は今後、更新を予定している



ベイエリア・安治川エリア

〔安治川エリアの現状〕

- 安治川周辺は、近世以降、諸国物産の集積地であった大阪の水運の中心として反映し、河川港としての大阪港の起源となる地区に位置付けられる。
- 安治川水門を境として川幅が異なり、内港としての役割を担う広い川幅の下流は広大なスケールを感じられるほか、遠方には都心ビル群のシルエットを見る視点場としてのポテンシャルを有している。
- 安治川の上流は、阪神なんば線やJR環状線といった視対象物があるが、街とのつながりがあまり感じられない単調な空間となっている。
- 安治川は江戸期に洪水対策のために開削された水路で、現在でも安治川水門により台風や高潮などの災害から市民の暮らしを守る機能を有している。



2. 2030構想の検討について

(3)海とまちを繋ぐ『光の海道』

バイエリア・安治川エリア

(方向性)

中之島とバイエリアを繋ぐ安治川が育んだ大阪の文化・産業を光で際立たせる

- ①災害から市民を守ってきた高い技術・機能を持つ安治川水門に光を当てる。
- ②安治川水門をエリアのシンボルとした光景観の創出と、シンボルを引き立てる周辺環境の構築。

(検討例) ●2025年大阪・関西万博時に国内外に向けて大阪の高い技術に裏打ちされた「安全安心都市」の発信
 ●シンボルとして安治川水門のブランディング

安治川水門

安治川水門のライトアップ(検討例)

現況

場のスケールに負けないダイナミックでシンボリックなアーチ構造となっている。

イメージ アーチ構造のライトアップ

- 安治川水門をエリアのシンボルとして、大阪の防災技術の高さを国内外に発信

中之島GATEエリア

安治川

安治川隧道 阪神なんば線

JR環状線

井天埠頭公園

大阪都心部(ビル群)への眺望

ビル群

安治川水門

USJ ユニバーサルシティポート船乗り場

天保山

天保山大橋

天保山・大阪港への眺望

舞洲

舞洲スラッジセンター

大阪広域環境施設 組合 舞洲工場

夢洲

天保山大橋

天保山大橋のライトアップ(検討例)

現況

以前ライトアップが行われていたが、機器の老朽化などにより現在は消灯されている。

イメージ 従前のライトアップ

バイエリアと大阪都心の一体感

2. 2030構想の検討について

(1) エリアの個性を際立たせる夜間景観形成

光の都市軸

2. 大阪都心での官民共創による夜間景観形成

大阪光のまちづくり2030構想 [2021~2030年]

(1) エリアの個性を際立たせる夜間景観創出

- 都市が成熟期を迎える中、これまでの「つくる」まちづくりにとどまらない、「育てる」まちづくりが求められており、近年、制度整備が進展するとともに、市民・企業・NPOなどが担い手となって、地域の価値の向上に取り組む「エリアマネジメント活動」が活発化している。
- 2020構想による光景観の永続化、また社会情勢への対応と新たな価値の創造では、官民における**将来像(ビジョン)**とその**価値の共有が必要**。
- 2030構想の策定にあたっては、まず**エリアマネジメントとの対話、意見交換**を通じてまちのブランドを形成する光への理解、共感を促し、民間で求める光環境のあり方や将来像を取りまとめ、官民共創により**その実現にむけた方策を検討**していくことが考えられる。
- 大阪エリアマネジメント活性化会議による「大阪エリアマネジメント活性化ガイドライン(2020年4月)」更新時において、2030構想で取り組む大阪の夜間景観の在り方やエリアマネジメント団体の連携についても記載いただけるよう働きかける。

<エリアマネジメントとの意見交換について>

プレステップ

光のまちづくりの価値の共有

大阪都心の光のまちづくり 日常・非日常・非常の光について

社会情勢の変化、持続可能なまちづくりをベースとして

- 今考えられる価値
- 今の価値をより高質なものにしていくための方策
- これから求められる価値 等

~まずは総括小委員会でしっかりと議論~

検討材料: 成功例、取り組み事例

必要性・価値をまとめる

ネクストステップ 大阪ならではの「官民共創」の創出

エリアマネジメントとの対話・意見交換

- 対象エリア (7エリア)
1. 大阪エリアマネジメント活性化会議参加エリア
梅田/中之島/御堂筋/難波
 2. 新たにエリアマネジメントに取り組むエリア
船場/新今宮/天王寺・阿倍野

- まちのブランドを形成する光への理解、共感
- 考えているまちの課題解決を図る方策とともに、SDGsに貢献する光のまちづくり、持続可能な光のまちづくりのあり方についての対話、意見交換 等

官民共創・公益の価値を創出する方策検討

- 得られた経済効果による質の向上、持続的な光のまちづくりに資する仕組みづくり

光のまちづくり・夜間景観

《成果目標》

- ① SDGsに貢献する光のまちづくり等の取りまとめ
- ② 求める効果~評価指標の整理(来訪者数・滞在時間・満足度・居住ニーズ等)
- ③ 将来像の取りまとめ

2. 2030構想の検討について

光の都市軸

2. 大阪都心での官民共創による夜間景観形成

大阪光のまちづくり2030構想 [2021~2030年]

(2)行政計画等と連携を図る

- 光のまちづくり推進委員会において取りまとめた夜間景観のあり方を官民で共有するとともに、「大阪市景観計画」などの行政計画と連携を図りながら推進する。
- 今後の御堂筋の目指すべき姿を示した「御堂筋将来ビジョン」など、各エリアの各種ガイドラインの考え方をふまえた夜間景観のあり方を検討するなど、相互連携を図りながら推進する。

参考

「大阪市景観計画」の概要

【景観形成の基本方針】 ※抜粋

- ① 市域全域での心地よい市街地景観の形成
- ② 地域の特徴をいかした景観の形成
- ③ 市民や事業者との協働による景観形成

○ 都市のイメージを高める印象的な顔づくり(眺望景観・夜間景観)

不特定多数の人の目に触れる頻度の高い場所において、建築物等のデザインを誘導し、フォトジェニックな(写真映えする)眺望の創出や光景観の演出により、都市のイメージを高める印象的な顔をつくります。

・眺望景観の典型的な3つの眺め

見通す眺め

見渡す眺め

ランドマークへの眺め

・夜間景観の典型的な4つのあかり

俯瞰するあかり

水辺のあかり

境界のあかり

個のあかり

○ 景観資源を活用した地域のにぎわいづくり(眺望景観)

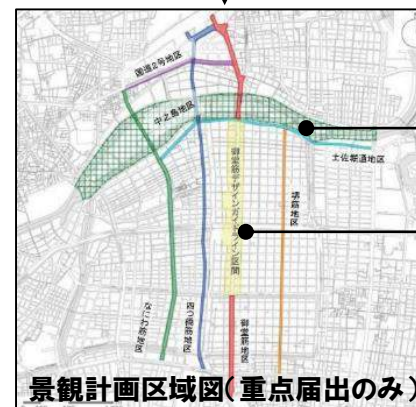
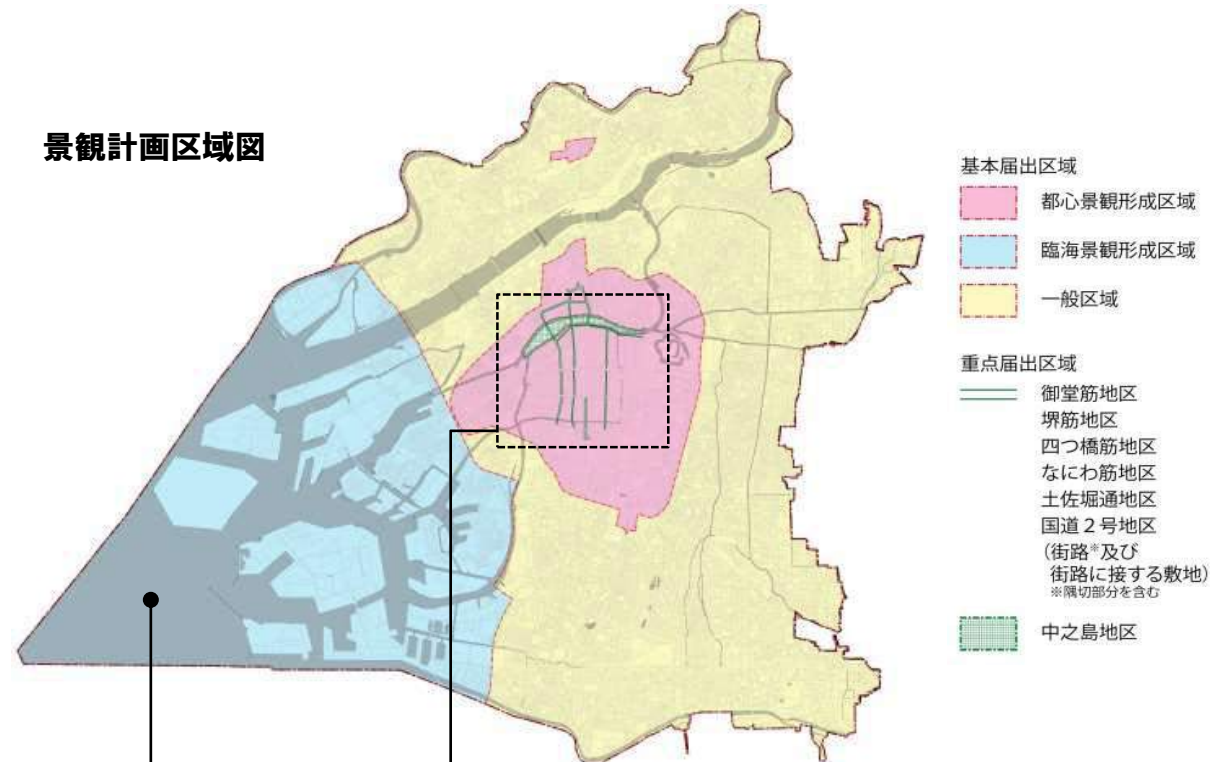
○ 個性を際立たせた夜間のにぎわいづくり(夜間景観)

個性的な景観のある地域において、個性を魅力的に際立たせるよう夜間照明による演出を行うことで、大阪を訪れる多くの人を惹きつけ、夜間におけるアクティビティを活性化し、夜間のにぎわいを高めていきます。

○ 景観に対する意識の向上と都市への愛着や誇りの醸成(眺望景観)

○ 安全・安心に過ごせる上質な夜間の環境づくり(夜間景観)

景観計画区域図



重点届出区域 [中之島地区]

重点届出区域 [御堂筋地区]

・地域固有の特徴をいかした重点的な景観形成方を展開するエリア
※淀屋橋～長堀区間は「御堂筋デザインガイドライン」に準ずる

基本届出区域の臨海景観形成区域 [ベイエリア]

・地域ごとの景観特性に応じた詳細な景観誘導を図る区域

2. 2030構想の検討について

(3)大阪・光の饗宴等、式の特徴を活かした個性あるイベントを継続的に展開

光の暦

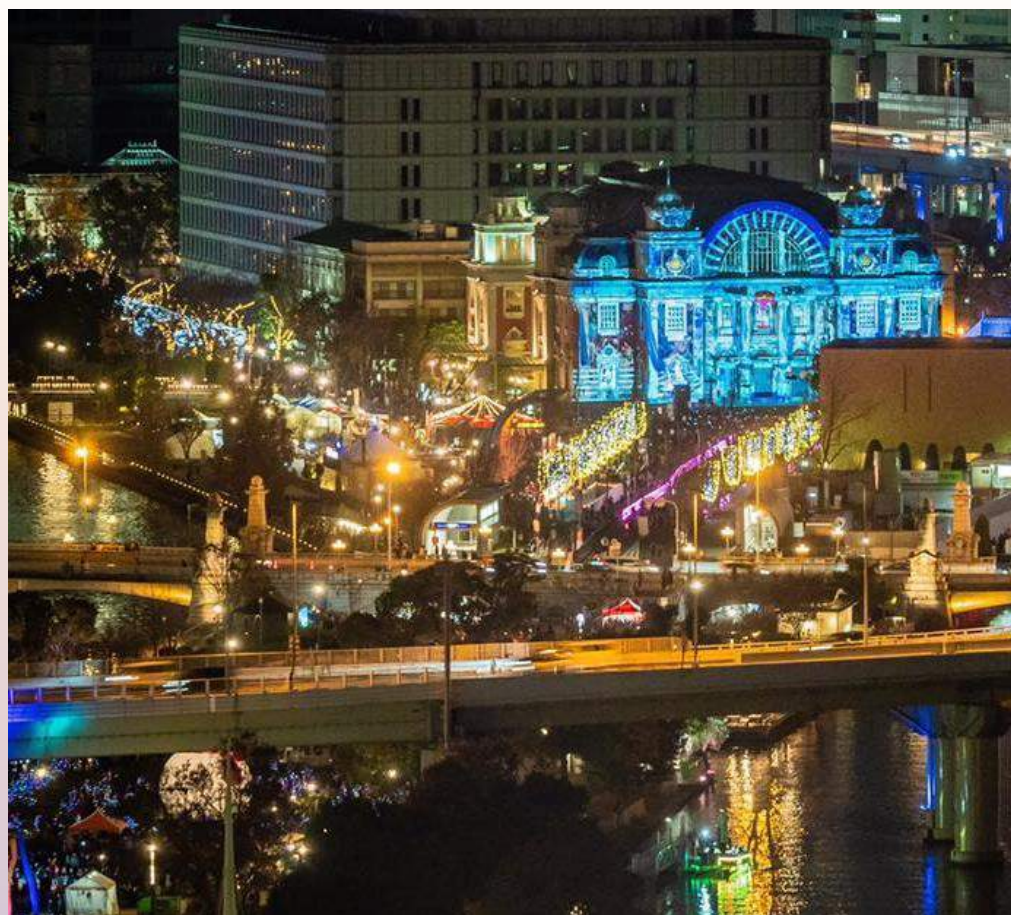
2. 大阪都心での官民共創による夜間景観形成

大阪光のまちづくり2030構想 [2021~2030年]

(3)大阪・光の饗宴等、四季の特徴を活かした個性あるイベントを継続的に展開

<大阪光のまちづくり2020構想「光の暦」での取組>

- 大阪の冬の風物詩にもなった大阪が一体となり光でおもてなしに取り組む大阪・光の饗宴の開催
- 大阪・光の饗宴を通じた官民協働によるモデル事業の創出
- 光の都市軸、日常の光景観資の創出とともに、大阪の魅力を際立たせる四季折々の非日常の光を創出



光のルネサンス



御堂筋イルミネーション

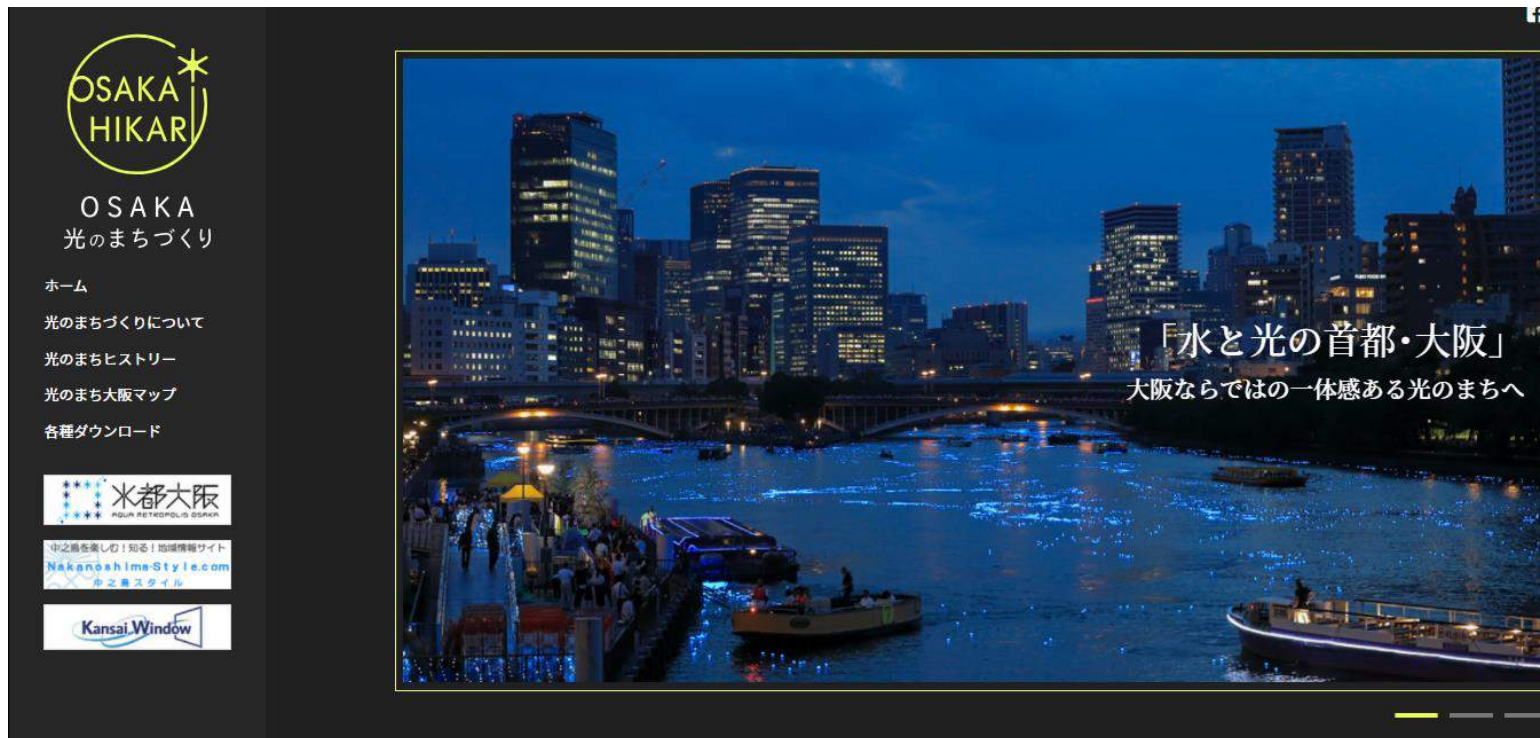


©大阪・光の饗宴実行委員会
エリアプログラム一例

光百景

3. 情報発信と情報共有のためのプラットフォームづくり 大阪光のまちづくり2030構想 [2021~2030年]

大阪の景観を創り上げてきた人々がWEBサイトを紹介したくなり、各種情報を提供したくなるプラットフォームづくりを目指すこととし、WEBサイトのリニューアルを実施。今後コンテンツ・SNS等情報発信手段の充実を図る。



- 〈OSAKA 光のまちづくり コンテンツ〉
- 光のまちづくりについて
 - 光のまち歴史
 - 光のまち大阪マップ
- 大阪が日本でも有数の美しい光景観が楽しめる都市となった歴史を解説。
- これまで実施してきたフォトコンテスト応募作品をマップにプロット。大阪の夜景探しの参考に。
- 各種ダウンロード
- 光の首都大阪マップ、光のまちづくり資料(技術指針、メンテナンス検討資料など)、光百景ポストカードなど



景観の永続化とクオリティの向上に向けたアドバイザー制度の検討(案)

<アドバイザー制度の概要>

光景観の永続化とクオリティの向上のため、光のまちづくり推進委員会としてアドバイザーを派遣するアドバイザー制度を創出する

○想定シチュエーション例

- ・堂島川、土佐堀川沿いの大規模開発で既存の光景観に影響がある場合
- ・中之島西部など新たに光景観を形成するにあたり、周囲との調和などアドバイスが必要な場合

相談者

想定団体：不動産デベロッパー、大阪府、大阪市など

検討委員会等

④専門家・アドバイザーは、光のデザイン、照明技術、維持管理手法、プロモーション等に対し、アドバイスを行う

参加者想定：大阪府、大阪市、ゼネコン、エリアマネジメント団体、光のまちづくりアドバイザー等

相談

①委員会へ相談

実施・連携

光のまちづくり推進委員会

②委員会で派遣について議論

総括小委員会
WG部会

派遣

③光のまちづくり推進委員会として専門家・アドバイザーを派遣

- 派遣にあたっての費用は原則依頼側の報酬規程などに準じて、アドバイザーと依頼側間で相談するものとする。
- その他業務の過多に応じて発生する経費(コンサルティング、技術的指導)等はその都度相談する。

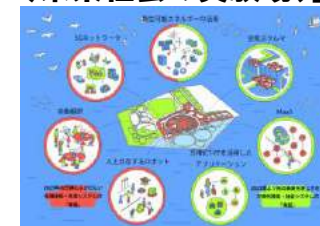


提供: 2025年日本国際博覧会協会

2025年大阪・関西万博の機会を活かす

- これまで作り上げてきた「水と光のまち」を世界に発信する好機
- 大阪・関西万博を通じて大阪の都市格向上につなげる

2025万博のコンセプト
「People's Living Lab
(未来社会の実験場)」



提供: 2025年日本国際博覧会協会

光の都市軸

大阪光のまちづくり2030構想

1. 海と川を包含する「水と光の東西軸」の創出
 - (1) 中之島夜間景観の質の向上と永続化
 - (2) 中之島の新たなエリアへの夜間景観の展開
 - (3) 海とまちを繋ぐ『光の海道』
2. 大阪都心での官民共創による夜間景観形成
 - (1) エリアの個性を際立たせる夜間景観創出

未来社会の実験場として発信

- ① 水と光の風景を世界へ発信
- ② 官民共創による取組み(大阪府・関西へ波及)
- ③ 技術力の向上・発信(スマートライティング等)

万博を好機に官民共創スタイルを打ち出し、大阪の魅力をPR

光の暦

- 大阪府域一体となった光の祭典
(大阪光の饗宴など)

光百景

- 水と光のまちを核としたブランディングプロモーションなど



水と光の首都大阪のブランド
2030年に向けて「浸透・発信」していく



2. 2030構想の検討について

推進イメージ

- 大阪・関西万博の機会を活かして、これまでに培った資源を発信するだけでなく、新たな魅力の創造・発信にもオール大阪で取り組む。
- 大阪・関西万博時に創出される多様な資源を万博レガシーとして継承し、大阪の光の永続化を図る。
- 大阪の光景観の創造と永続化に向け、官民一体となった事業推進体制や財源確保など推進スキームの構築を図る。

大阪光のまちづくり2030構想 [2021~2030年]

1. 海と川を包含する「水と光の東西軸」の創出
2. 大阪都心での官民共創による夜間景観形成
3. 情報発信と情報共有のためのプラットフォームづくり

- オール大阪の多様な魅力を包括
- 万博時における大阪の魅力発信

● オール大阪で万博に向けた魅力創造・発信

2025年
大阪・関西万博を契機とした官民共創による多様な都市魅力

万博レガシーの継承、魅力ある光景観を永続化

- 大阪・関西万博を契機とした多様な都市魅力
- 創出された魅力を更に向上させる光による取組み
- これまでに形成された光の魅力資源

都市格の向上
(水と光の首都大阪のブランド)

2021年
あと3年しかない

大阪の魅力を国内外に発信 ブランディングプロモーション手法・ツールが整いつつある

観光集客 大阪活性化に向けた官民協働によるモデル事業の創出 投資効果の検証

魅力創造 官民が一体となってエリアの価値向上を促す光景観を創造

【背景】水と光のまちづくり推進に関する基本方針

水と光のまちづくり 国内外へ発信する大阪らしい光のまちづくり

2020構想
ブランドの確立

2030構想
浸透・発信～光のまちづくりに関する新たな仲間、関わりある人々を増やす

2030年以後

2010年～2019年

1. 前期フェーズ
2021年～2024年

大阪・関西万博
2025年4/13～10/13

2. 後期フェーズ
2026年～2030年

『大阪光のまちづくり2030構想』

参考資料

「水と光の東西軸」の景観的・歴史的特性

	安治川エリア	中之島エリア
景観的特性	<ul style="list-style-type: none"> ● 安治川水門の起点に、上下流で川幅が変化をする。 ● 上流では市街化が進展し、安治川水門より下流では、河川沿いに物流倉庫や工場等のまちなみや、天保山ハーバービレッジやUSJ周辺の賑わいのある景観などが形成されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 東端に公園、御堂筋附近に市役所、日本銀行などの歴史的建築物、そして西に大企業のビル群やホテルや国際会議場、美術館など文化的施設のある中之島は、まさしく大阪の政治、経済、文化の発信基地と称されている。 ● 水都大阪を代表するエリアであり、延長は約3キロメートルあり、沿川の街並みも区間ごとで異なる。(構想では5つのエリアに区分) ※写真:中之島スタイル.com 
歴史的特性	<ul style="list-style-type: none"> ● 江戸時代初期までの淀川河口部には九条島が流れを遮る位置にあり、洪水がたびたび起こり、また土砂堆積により舟運にも不便をきたすことが多くあった。このため貞享元年(1684)幕府の命により、河村瑞賢が水路を開削し、安治川と名付けられた。 ● 諸国の米・物産を積載した千石・二千石の大型廻船が直接市中に入船できるようになり、として江戸時代大坂の経済発展を支えた。 ● 慶応4年(1868年)に川口運上所が開設され、大阪は諸外国に対して開港された。川口には居留地がつくられ、異国の文化香る文明開化の中心として賑わうなど、大阪港は、当時は安治川を主とする河川港であった。 ● 明治30年に、従来までの川口港に代わり安治川と木津川の河口に新たな港を建設する本格的な築港工事に着手された。こうした築港計画と淀川大改修によって大阪は近代港をもつ国際都市としてさらなる発展を遂げた。  <p>「菱垣新綿番船川口出帆之図」 ※木津川、安治川の分流する地点 芳豊画</p> <p>出典:大阪府立図書館 錦絵にみる大阪の風景</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 江戸期の中之島は、全国から米を始め珍奇な物資が集まり、売買される活気に満ちた場所であった。大阪で諸藩の米の保管・売却にあたるのが蔵屋敷であり、その多くは中之島に集中していた。 ● 明治期には、大阪初の公園として中之島公園が開設される。公園内には、これも大阪初のビア・ガーデンがオープンするなど、市民の憩い場として人気を博すこととなる。 ● 玉江橋の東から常安橋にかけては商家が並び、対岸の福島・浦江・曾根崎・海老江のあたりは、近郊からの買物客に向けた市場として賑わっていた。 ● 大正期には、「大・大阪時代」を迎え、大阪市庁舎をはじめ、中央公会堂、日本興業銀行大阪支店など大規模な洋風建築が集積することとなる。 ※文:中之島スタイル.com  <p>左から「川口雑喉場つきじ」「堂島米市場」「三大橋」</p> <p>出典:大阪府立図書館 錦絵にみる大阪の風景</p>

「水と光の東西軸」の現況:安治川



大阪市中央卸売市場付近(川幅約158メートル)



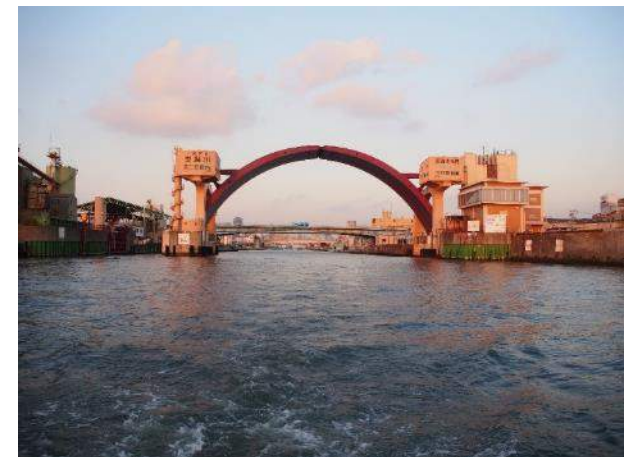
安治川河口部から都心方面を見る



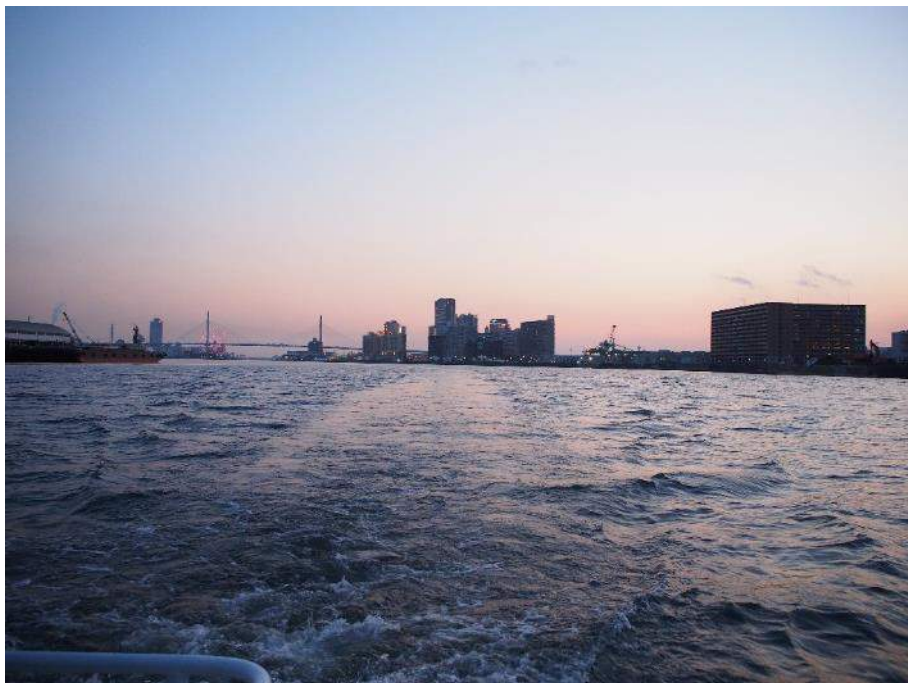
阪神なんば線(奥はJR環状線)



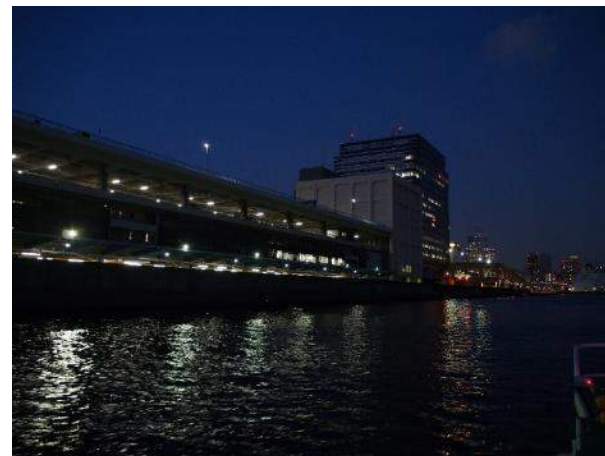
JR 環状線(奥は安治川水門)



安治川水門



天保山・USJ付近(川幅約500メートル)



大阪市中央卸売市場 西棟



大阪市中央卸売市場付近から都心方面を見る

「水と光の東西軸」の現況: 中之島



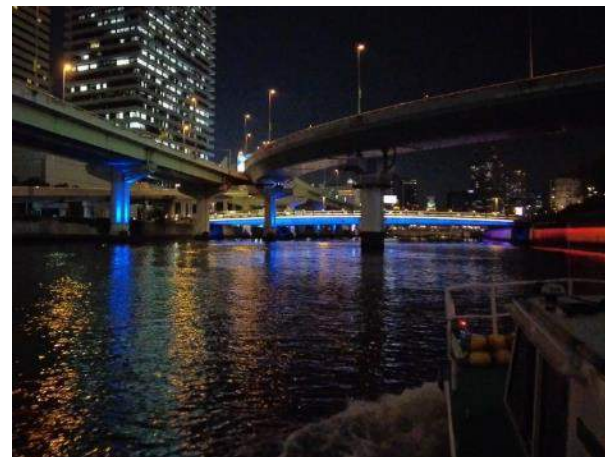
堂島大橋上流部の護岸ライトアップ



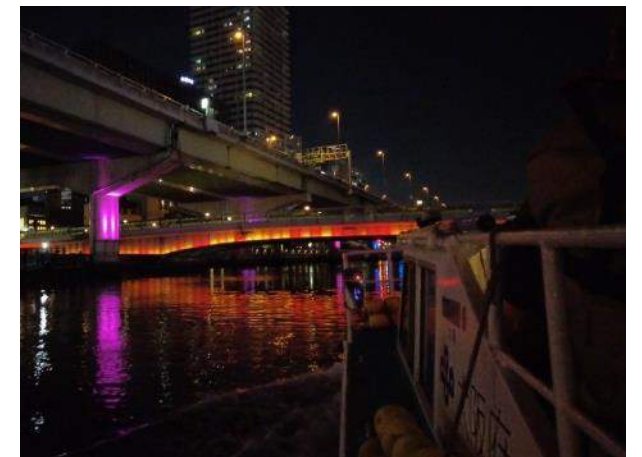
フェスティバルタワー付近の護岸ライトアップ



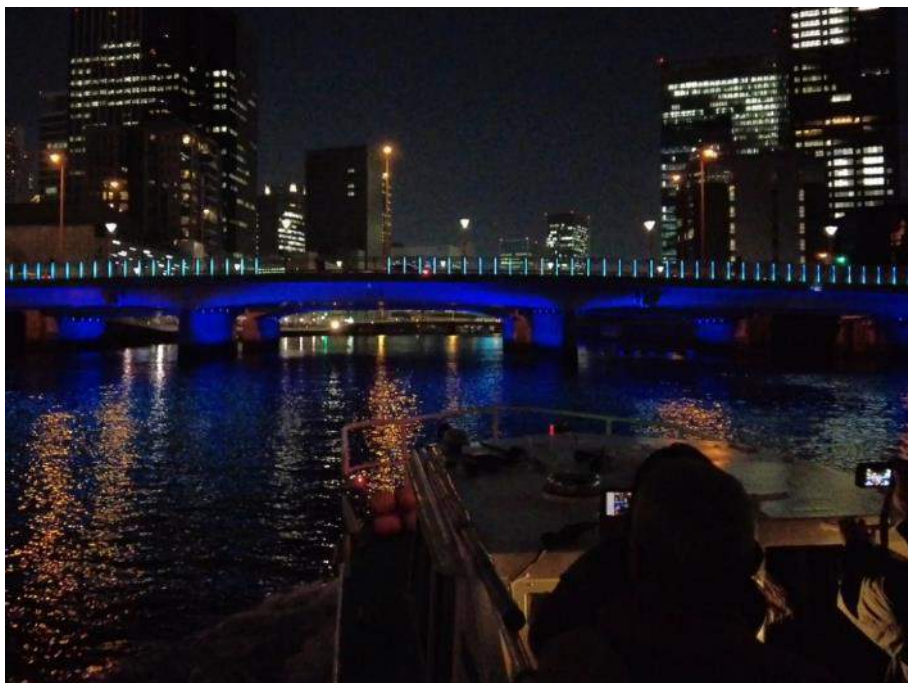
フェスティバルタワー付近の護岸ライトアップ



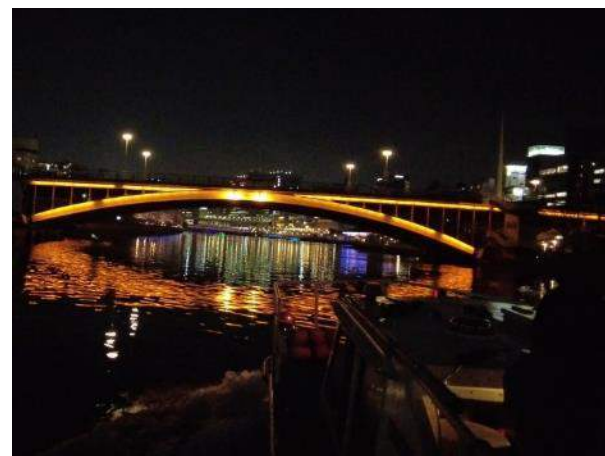
中之島ガーデンブリッジと護岸(異なる配色)



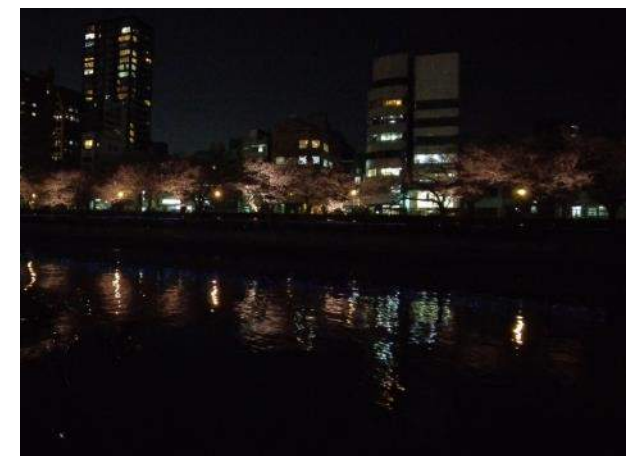
鉾流橋



玉江橋



天神橋(整備から10年以上が経過)



南天満公園(護岸ライトアップが劣化して見えない)

「水と光の東西軸」 ライトアップの永続化 技術検討資料

①ライトアップ照明設備の現状認識について

	現状	課題	現状システム構成
LED器具	①LED器具単体の不点灯(耐用年数10年) ②メーカー毎で異なる修理方法	①設置環境にもよるが、LED素子の不点ではなく制御基板及び電源の経年劣化によりLED器具が不点になる場合が多い。 ②部分交換ができるメーカーと要全交換が必要なメーカーがあり、設置箇所毎でのランニングコストに大きく影響が出ている。	<p>LED照明器具例 4ch(赤緑青白) 制御基板 電源 ← AC100V</p>
調光制御	納入メーカーの違いによる各所不整合(耐用年数10年) ①さまざまなプログラム仕様で制御・記憶方式が異なる ②LED器具への通信制御方式が異なる	①制御装置に演出シーンを記憶します。納入メーカーでなければ設定変更できない装置もある。 ②制御信号には各社共通のDMX信号とメーカー独自の制御信号の2パターンがある。独自信号の場合、他社に置き換えできない。	<p>DMX512信号分配器※1 ← AC100V ① LED器具専用制御装置 ← AC100V</p>
スケジュール運用	納入メーカーの違いによる各所不整合 ①さまざまなプログラム仕様で記憶方式が異なる ②プログラムスタート時の不整合(各所正時で揃わない)	①納入メーカーの違いによる多様なプログラム仕様で演出シーンの記憶方式が異なる。 ②プログラムスタート時に、各所の時刻設定の同期が取れないため、演出スタートにバラツキがある。	<p>① 演出シーン記憶装置(タイマー内蔵) ← AC100V ② 電源制御タイマ(時報同期無しの場合もある) ← AC100V</p>
備考	<p>【参考】</p> <p>電流を増やせば出力(明るさ)がアップしますが、同時に樹脂が劣化し、寿命が短くなります。</p>	<p>LED照明器具の光源の寿命はLEDモジュールの寿命のことで、カラーLEDは「光束維持率50%」を寿命としています。なお、これはあくまで設計寿命であり、この寿命を保証するものではありません。</p>	<p>【制御形態の多様化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ← DMX512信号: 世界共通プロトコルでメーカー互換性有り(最大制御ch: 512ch) ← 独自信号: メーカー独自信号で互換性無し ← タイマー制御: 電源一括ON/OFF監視 <p>※1: 距離制限や配線系統が別れる場合に必要</p>

「水と光の東西軸」 ライトアップの永続化 技術検討資料

②ライトアップ設備の具体化検討

	制作案	効果(保守管理)	システム構成
LED器具	<p>納入メーカーに依存しない器具の選定</p> <p>①DMX512信号により制御できる機材を使用</p> <p>②LED器具の出力色の統一 (赤緑青白4chなど)</p>	<p>①将来の改修や部分的な個別機材修理時も代替え機材などでの対応が可能で即応性が大幅に改善される。</p> <p>②将来の改修や部分的な個別機材修理時も記憶装置の設定変更など余分な費用計上が不必要となる。</p>	
調光制御	<p>互換性のある制御装置(記憶可)を導入し多種多様なイベントにも対応可とする</p> <p>①互換性を重視し外部接点やDMX512信号入力によりLED器具を制御できる制御装置を選定。</p> <p>②LED器具への通信制御方式もDMX512信号に統一する。</p>	<p>①メーカー対応への互換性がある記憶装置の活用で外部からの持ち込み対応も可能となり拡張性のあるシステム構成となる。</p> <p>②LED器具への通信制御方式の統一で、納入メーカーへの依存度が軽減される。</p>	
スケジュール運用	<p>電波時計を採用し、各所演出スタートの同期をとる。</p> <p>①電波時計で制御装置へスタート信号を出力することで、各所の演出スタート時刻の同期をとる。</p> <p>②汎用性のある電波時計を採用する。</p>	<p>①各所の演出スタートを合わせることで全体の統一感を出す。</p> <p>②汎用性のある電波時計を使うことで、修理対応などの即応性が大幅に改善される。</p>	
備考			<p>【制御形態の統一】</p> <p>← DMX512信号:世界共通プロトコルでメーカー互換性有り (最大制御ch:512ch)</p> <p>← タイマー制御:演出スタート信号出力</p>

参考

「大阪市景観計画」の概要

臨海景観形成区域 中之島

【各区域の基本形成方針 ※抜粋】

臨海景観形成区域

景観形成方針(大川～安治川沿川地域の方針)

○水辺の魅力を高める夜間景観の形成

- ・ 高所からの俯瞰、水際で水辺に映えるまちなみ、ランドマークの演出など、夜間における水辺の印象的な顔づくりに努める。

景観形成基準

夜間景観

- ・ 照明演出を行う場合は、建物のファサードの美しさや魅力を高めるものとし、周辺のまちなみの風景の一部となることを考慮して表現内容や表現方法を工夫する。また、周辺環境に配慮した輝度とする
- ・ 夜間照明を主たる道路に面して行う場合は、周辺景観やエリアのイメージと調和するよう夜間景観の形成に努める。
- ・ 公園や広場などのパブリックスペースに隣接する敷地では、夜間照明は周辺の安全・安心に寄与するよう努める。
- ・ 周辺に近代建築物など歴史的な景観資源やエリアを象徴する建築物等がある場合は、それと調和するよう配光や色温度に配慮する。
- ・ 主要な視点場からの眺めに配慮し、ランドマークとなる大規模建築物などの良質なライティング、水面への映りこみに配慮した照明などにより、港に映える夜間景観の形成に努める。

重点届出区域〔中之島地区〕

景観形成方針

○地域の特性に応じた夜間景観

- ・ 夜間照明においては、歴史的景観資源の周辺ではそれらとの調和、商業地では活気・にぎわいと秩序との共存など、それぞれの場所の特性に応じた夜間景観の形成に努める。
- ・ 護岸や橋梁等の公共施設については、光のまちづくり推進委員会の取り組みを踏まえ、魅力とにぎわいに満ちた夜間照明の創出に努める。

○都市のイメージを高める夜間景観形成

- ・ 地域の特徴的な景観資源や景観特性をいかし、俯瞰するあかり、水辺のあかり、界隈のあかり、個のあかりの創出に努める。
- ・ 新たな照明技術を取り入れながら、周囲の環境に配慮しつつ人目をひき存在感を際立たせるようなファサード照明により、都市の顔となるような夜間景観の創出に努める。

景観形成基準:建築物の建築等

夜間景観

- ・ 照明演出を行う場合は、建物のファサードの美しさや魅力を高めるものとし、周 一辺のまちなみの風景の一部となることを考慮して表現内容や表現方法を工夫する。また、周辺環境に配慮した輝度とする。
- ・ 夜間照明を主たる道路に面して行う場合は、周辺景観やエリアのイメージと調和するよう夜間景観の形成に努める。
- ・ 公園や広場などのパブリックスペースに隣接する敷地では、夜間照明は周辺の安*全・安心に寄与するよう努める。
- ・ 周辺に近代建築物など歴史的な景観資源やエリアを象徴する建築物等がある場合は、それと調和するよう配光や色温度に配慮する。
- ・ 建物の壁自体を媒体として活用し、動的な変化や映像を創り出す照明演出について、別に定めがある場合は、これによるものとする。

景観形成基準:工作物の建設等

夜間景観

- ・ 照明演出を行う場合は、工作物の美しさや魅力を高めるものとし、周辺のまちなみの風景の一部となることを考慮して表現内容や表現方法を工夫する。また、周 辺環境に配慮した輝度とする。
- ・ 光のまちづくり推進委員会での取り組みを踏まえ、護岸や橋梁等の良好なライトアップに努める。
- ・ 周辺に近代建築物など歴史的な景観資源やエリアを象徴する建築物等がある場合は、それと調和するよう配光や色温度に配慮する。

参考

「大阪市景観計画」の概要

御堂筋

〔御堂筋〕御堂筋デザインガイドライン 御堂筋本町北地区(淀屋橋～本町)・本町南地区(本町～長堀)共通

魅力的な夜間景観の創出

- ・沿道への漏れ光に配慮
- ・上質で温かみのある御堂筋にふさわしい色温度(3000K以下)を原則とする



●夜間景観のあり方 2.5.1

(設え)

- ・御堂筋に面する低層部の壁面は、建物から漏れる光(以下漏れ灯り)で沿道を柔らかく照らし、沿道から建物内の人の活動を感じることができるよう配慮して計画してください。
- ・漏れ灯りによる演出が難しい場合は、歩行空間に近い壁面や柱面のライトアップなど、通り沿いの夜間景観の演出に配慮してください。
- ・閉店後(営業時間外)についても、道路側をショウウィンドウ的に活用するなど、漏れ灯りによる効果や壁面の設えに配慮してください。
- ・2階以下の低層部については、にぎわいを演出する、3階以上の中高層部については、風格を演出するという視点で、それぞれの対比も考慮して計画を検討してください。
- ・色が変化したり、点滅したり、動いたりする照明を用いる場合(御堂筋側から視認できる屋内部に用いる場合を含む)は、輝度をなるべく低くし、色相に配慮し、変化をゆるやかなものとしてください。
- ・夜間における安全で快適な歩行環境を、効率的・効果的に実現するため、建物側の照明の仕様や配置については関係部局と調整してください。

(色味・色温度)

- ・照明の色温度については、上質で温かみのある御堂筋にふさわしい電球色(3000K以下)を原則とし、御堂筋のイチョウ並木のライトアップとの関係に配慮して計画してください。
- ・ただし、デザイン性に優れ、御堂筋にふさわしいものについては、この色温度に限らず計画を検討してください。



夜間照明は、沿道への漏れ灯りに配慮して計画してください。



壁面や柱面などの鉛直面を照らすと、同じ照度で床面を照らす場合より、人の目には明るく感じられます。



閉店後も道路側をショールーム的に活用するなど、壁面の演出に配慮してください。自動的に消灯するためのタイマーを設置したり、窓付近の回線を独立したものにしておく、スムーズに運用することができます。



夜間景観は、低層部ではにぎわい、中高層部では風格の演出に配慮してください。

●イベント時のライトアップ・イルミネーション 2.5.2

- ・御堂筋イルミネーションなどのイベント時には、街区の植栽のライトアップや、壁面後退部などにアート等を設置するなど、イベントへの協力を検討してください。
- ・イベント期間中は、中高層部で外部に漏れる光を抑制するよう努めてください。



イベントと連携したアートを壁面後退部に設けた例。御堂筋側から電源を取れるようにしておく、柔軟な対応が可能になります。



イベントと関係性の低い光を抑えることで、イベントの効果を一層高めることができます。

御堂筋本町北地区 (淀屋橋～本町)

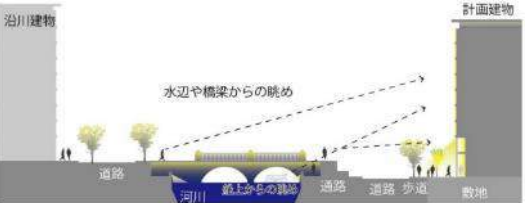


夜間照明の考え方

参考

「大阪景観読本」の概要

【市域全の夜間景観形成基準】 【「3つのエリア」特性を生かす照明手法等】

夜間景観形成基準		大阪城公園周辺	中之島等	ベイエリア
<ul style="list-style-type: none"> 照明演出を行う場合は、建物のファサードの美しさや魅力を高めるものとし、周辺のまちなみの風景の一部となることを考慮して表現内容や表現方法を工夫する。また、周辺環境に配慮した輝度とする。 光のまちづくり推進委員会での取り組みを踏まえ、護岸や橋梁等の良好なライトアップに努める。 周辺に近代建築物など歴史的な景観資源やエリアを象徴する建築物等がある場合は、それと調和するよう配光や色温度に配慮する。 夜間照明を主たる道路に面して行う場合は、周辺景観やエリアのイメージと調和するよう夜間景観の形成に努める。 夜間照明を当該街路に面して行う場合は、周辺景観やエリアのイメージと調和するよう夜間景観の形成に努める。 公園や広場などのパブリックスペースに隣接する敷地では、夜間照明は周辺の安全・安心に寄与するよう努める。 景観上主要な道路からの眺めに配慮し、効果的な建物へのライトアップにより周辺の歴史的景観資源への視線や動線を誘導する工夫を行うなど、夜間景観の演出に努める。 <p>〈屋外広告物意匠等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 照明を施す場合は、周辺環境に配慮した輝度とするほか、景観上主要な道路からの見え方に留意し、目立たないような工夫に努める。 <p>〈屋上広告物〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 照明を施す場合は、内照式は避け、できる限り外照式とするよう努める。ただし、文字のみの場合は可とする。 	<p>エリアの魅力 を高める照明手法</p> <p>夜間景観形成基準に関わる照明手法等</p>	<p>来訪者を迎える雰囲気づくり、活気やにぎわいと秩序との共存など、ランドマークを活かした夜間景観の創出に努める</p> <ul style="list-style-type: none"> 照明演出を行う場合は、建物のファサードの美しさや魅力を高めるものとし、周辺のまちなみの風景の一部となることを考慮して表現内容や表現方法を工夫する。また、周辺環境に配慮した輝度とする。 主要な視点場からの眺めに配慮し、大阪城天守閣と調和した配光や色温度により、大阪城天守閣を際立たせる夜間景観の形成に努める。 主要な視点場からの眺めに配慮し、効果的な建物へのライトアップにより大阪城天守閣への視線や動線を誘導する工夫を行うなど、夜間景観の演出に努める。 主要な視点場からの眺めに配慮し、屋上の広告物やサインについて照明を施す場合は、内照式は避け、できる限り外照式とするよう努める。ただし、文字のみの場合は可とする。 主要な視点場から大阪城天守閣への眺望範囲に、広告物やサインを設置し照明を施す場合は、周辺環境に配慮した輝度とするほか、視点場からの見え方に留意し、目立たないような工夫に努める。 	<p>魅力的な水辺のあかりをつなげる演出～水辺の印象的な顔づくり～</p>  <ul style="list-style-type: none"> 照明演出を行う場合は、建物のファサードの美しさや魅力を高めるものとし、周辺のまちなみの風景の一部となることを考慮して表現内容や表現方法を工夫する。また、周辺環境に配慮した輝度とする。 主要な視点場からの眺めに配慮し、大川、堂島川、土佐堀川及び安治川に面する建築物は、水面への映りこみに配慮した照明などにより、都市の魅力を高める水辺の夜間景観の形成に努める。 大川、堂島川、土佐堀川及び安治川に面する建築物の部分について、主要な視点場からの景観資源への眺望範囲に広告物やサインを設置し照明を施す場合は、周辺環境に配慮した輝度とするほか、視点場からの見え方に留意し、目立たないような工夫に努める。 主要な視点場からの眺めに配慮し、大川、堂島川、土佐堀川及び安治川に面する建築物の屋上の広告物やサインについて、照明を施す場合は、内照式は避け、できる限り外照式とするよう努める。ただし、文字のみの場合は可とする。 	<p>港らしい夜景を創り出すあかりの演出</p> <ul style="list-style-type: none"> 照明演出を行う場合は、建物のファサードの美しさや魅力を高めるものとし、周辺のまちなみの風景の一部となることを考慮して表現内容や表現方法を工夫する。また、周辺環境に配慮した輝度とする。 主要な視点場からの眺めに配慮し、ランドマークとなる大規模建築物などの良質なライティング、水面への映りこみに配慮した照明などにより、港に映える夜間景観の形成に努める。 